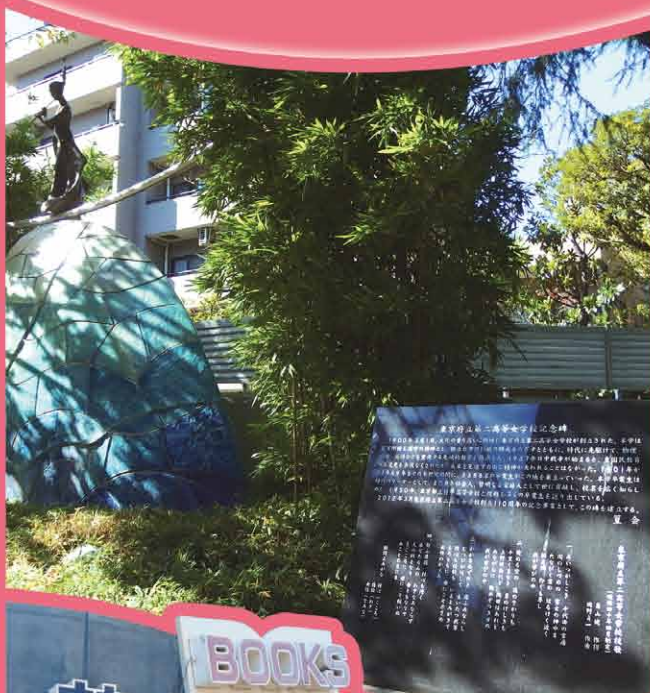


留王

会報

2015 No.26

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会



特集

「あのころ」「これまで」そして「これから」

— 高度経済成長の終焉・学生運動の終末・

バブルとその崩壊・グローバル化の時代を生きて—



箏会総会のご案内

会 場：学士会館(210号室)

東京都千代田区神田錦町3-28

TEL.03-3292-5936(代表)



会 費：7,000円

平成24年～27年卒は2,000円

- ご出席の方は、同封のハガキで5月15日(金)までにお申し込みください。
- 会費は、5月15日(金)までに同封の郵便局の払込取扱票でお振込みください。



川口 幸子さん



しゅう さえこさん

日 時：2015年6月7日(日)

受付開始 10:30

総 会 11:00～11:40

講演会 11:45～12:30

懇親会 12:40～15:00

交通のご案内

電車で

◆地下鉄都営三田線／都営新宿線／東京メトロ半蔵門線
「神保町」駅下車A9出口から徒歩1分

◆東京メトロ東西線「竹橋」駅下車3a出口から徒歩5分

お車で

◆「東京」駅 丸の内北口からタクシーで10分

《今回幹事》 高校25回生：昭和48年卒

《次回幹事》 高校26回生：昭和49年卒

《総会・懇親会のお問い合わせ先》

花澤 聖子 高校25回生(箏73回生)

TEL.090-8444-0008

今年は箏会が発足して115年に当たります。

皆様ふるってご参加ください。

《懇親会》

大いに旧交を温め、新たな親交を広げましょう。

川口幸子さん(ヴィオラ・高校24回生・箏72回生)

しゅうさえこさん(ヴォーカル・高校27回生・箏75回生)

上記2名のジョイント・ミニライブがあります。

竹早高校ダンスパフォーマンス部作成のビデオの

放映もあります。

どうぞお楽しみに！



「大気環境改善への努力と地球温暖化影響予測」

講演タイトル

講師：近藤 裕昭氏



経 歴

- 1973年 3月 竹早高校卒業（高校25回生・箕73回生）
- 1977年 3月 東京大学理学部地球物理学科卒業
- 1979年 3月 東京大学理学系大学院修士課程修了地球物理学専攻
- 1979年 4月 通産省工業技術院公害資源研究所入所
- 1990年 12月 理学博士（東京大学）
- 2001年 4月 独立行政法人産業技術総合研究所出向
- 2010年 4月 同環境管理技術研究部門副研究部門長

産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門 副研究部門長、経済産業省環境審査顧問会顧問。

桜美林大学非常勤講師(1996～2000)、東京工業大学非常勤講師(2001～2012) 著書に『人間空間の気象学』、共著に『大気環境シミュレーション』など

講演概要

私たちが竹早高校の生徒であった昭和45年頃、日本で初めて「光化学スモッグ」の発生が確認されました。日本ではそれ以前から公害問題の一つである大気汚染が顕著でしたが、いろいろな努力により改善されたものもあれば、光化学大気汚染やPM2.5など解決が難しい問題も残されています。また、地球温暖化の影響については予測の不

確実性の幅が大きいことも事実です。ここでは技術開発により大気汚染が改善されてきた歴史を振り返るとともに、地球温暖化の影響予測が日本においてどの程度進んでいるかについてご紹介したいと思います。そして現在直面するいろいろな課題についてどう取り組んでいけばよいのか考えていきたいと思っています。

C O N T E N T S			
篁会総会のご案内	1	篁会教育基金・奨学生認証式	30
講演会のご案内	2	平成26年度「篁会総会・懇親会」報告	31
篁会会長・校長挨拶	3、4	篁情報館	32
特集「あのころ」「これまで」そして「これから」	5	第8回篁寿会開催報告	33
学年幹事・部活幹事連絡会開催	16	関西篁会だより・湘南篁会だより	34
第7回 篁会特別セミナー報告	17	学校の活動報告	35
竹早山荘の思い出	23	理事会報告	36
竹早エコー	25	お知らせ・役員名簿	37

箎会会長挨拶

「2015年、同窓会に想うこと」

～社会の変化に対応した同窓会活動のあり方について

箎会会長 古関 恵一



はじめに

箎41回生松本紀子前会長からバトンを受け取って11ヶ月ほど経ちました。理事会はじめ会員の皆さんから期待されているのは「世代を超えたさまざまな関わりの実感される様々な活動を推進してほしい」という声でした。世間では同窓会活動について「シニア世代の親睦会」と考えられているかと思います。しかし箎会については当てはまらない点もあります。

箎会は東京府立第二高等女学校という希有な女子高等教育を担った時期、新制・学校群制度時代・グループ選抜、平成の都立高校、の各時代の制度下の時期を経て今に至る第二高女・竹早高校の同窓会のことでありますが、世代や学校の制度を超えて校風・気風が脈々と受け継がれて、箎会の活動も世代を超えて支えて合っていることが最大の特徴に思われます。卒業生ひとりひとりには、都会的な口数の少なさや柔らかな雰囲気、私の強さ・芯の強さ、男女が等しいとの価値観、優秀さへの敬意、人としての生き方にこだわりをもつ、コツコツ向上することを密かに目指す、などの美点を感じますが、それらが総体となって箎会の活動の微妙な色合いが決まっている。他の集まり・交流では、めったに感じられない共通点でもあろうかと思えます。こういったことで、200を超える都立高校の中でもひととき輝きを放っていると感じます。そのためか、先輩・後輩問わず、会議・懇談は常に刺激と緊張とリラックスがミックスされて、新たな企画には響き合うようなアクションが生まれます。ボランティア活動だけに、お互いに決して手を抜かない気風も育っており、質の高い活動に参加することで達成したときに得がたい愉しさが目指されています。

1 箎会の特徴とは ～あり方のユニークさ

箎会は東京府立第二高等女学校という希有な女子高等教育を担った時期、新制・学校群制度時代・グループ選抜、平成の都立高校、の各時代の制度下の時期を経て今に至る第二高女・竹早高校の同窓会のことでありますが、世代や学校の制度を超えて校風・気風が脈々と受け継がれて、箎会の活動も世代を超えて支えて合っていることが最大の特徴に思われます。卒業生ひとりひとりには、都会的な口数の少なさや柔らかな雰囲気、私の強さ・芯の強さ、男女が等しいとの価値観、優秀さへの敬意、人としての生き方にこだわりをもつ、コツコツ向上することを密かに目指す、などの美点を感じますが、それらが総体となって箎会の活動の微妙な色合いが決まっている。他の集まり・交流では、めったに感じられない共通点でもあろうかと思えます。こういったことで、200を超える都立高校の中でもひととき輝きを放っていると感じます。そのためか、先輩・後輩問わず、会議・懇談は常に刺激と緊張とリラックスがミックスされて、新たな企画には響き合うようなアクションが生まれます。ボランティア活動だけに、お互いに決して手を抜かない気風も育っており、質の高い活動に参加することで達成したときに得がたい愉しさが目指されています。

2 同窓会の変化と伝承

今、日本はグローバル化など「環境変化への対応」と、スキルと考え方の「若い世代への伝承」が、喫緊のキーワードになっている感があります。同窓会である箎会も例外でなく時代の変化に即した対応のため、先般、副会長を若干名とし、委員会制度をとりいれる会則変更を致したところでした。これ

により副会長と各委員会のリーダーのイニシアティブが強く発揮され、個性的な求心力を軸に持った体制になりました。会報編集委員会、総会準備委員会、特別セミナー委員会などは、プロジェクトベースの求心力ある活動を展開しています。これはオープンで良い雰囲気の時代、また活動のリソースに恵まれた時代にしか生まれない運営方法かもしれませんが、多くの方のご尽力もあり、今は幸いに可能です。このことを理事会が認識をして数々の議論を経てマネジメントの仕方を変更しました。また、極力、活動に若い世代を受け入れられるように変化をはかっています。実際に世代を超えて一緒に行う活動を行って、スキルや考え方は伝承されると思います。同窓会で培ったスキルが自分の仕事にも役立つとの声も良く聴きます。

3 新たに見いだされるValue

これらのマネジメントの変革により、「同窓生の昔を懐かしむ活動」にプラスして「同窓生相互の文化的な刺激・新たな活動機会を提供」あるいは「在校生支援」に取り組んでいます。具体的には、前者はこれから企画される各種の講演会・フォーラム、後者では、特別セミナー、あるいは奨学生の選考制度などがこれに当たります。さらに個人目線で世代を超えた卒業生の多様な価値観を吸収し自分の人生に生かす様々な活動が加わっていると思われます。これらは、新たな価値であり、箎会の活動の新たな特徴にもなっていると思います。運営面からみると、竹早の同窓会の構成はシンプルで、会長・副会長・理事会が協力して優先度の高いと考えられた活動を中心に行う実務的な体制です。参加の方々は、企画に長けた方、実行面のリードに強みを発揮される方や、実務的な実行をしっかり任せられる方など多数がそれぞれのキャラクターを活かされ、距離感を上手にとりながら実行し、楽しい会になっています。

4 皆様からのエール、ご協力の申し出のご一報をお待ちします

これまで一端をご紹介したように同窓会のプラスアルファの活動の価値、あるいは、個人目線でひとりひとり得られるさまざまな果実(ベネフィット)を想えば、さらに参加しようとする方がおられるというのがわれわれの期待です。実際、たとえば就職活動前の大学生、30歳前後の時代、あるいは50代

以降で子育ての一段落した世代、お忙しい中でも個人的に時間の許す方などがおられると存じます。ひとつお願いがあるとすると、「何か同窓会の助けになることをしたいのですが」との連絡を皆様からお寄せいただくことです。実際、今の若い理事の方にはそのようなきっかけで参加された同じような方が多く最初は知っている人が少ないところから不安なスタートをされました。そのため担務の引継書を整備しつつあります。また名簿の冊子での発行を控えて、WEBの名簿管理

システムを整備したことは将来の同窓生の連携・懇親を支える土台になるシステムです。皆様のご登録の状況確認も併せてお願い致します。時間のできた方、面白いかもしれないと思われた方は、是非、篁会のWEBシステムを通じてご連絡のほどを、お願い致します。運営担当から理事会メンバーに連絡が届きます。一緒に同窓会をエンジョイしましょう。
(高校29回生・篁77回生 任期 2014年6月～2017年6月)

校長挨拶



「都立高校の確かな復活に向けて」

竹早高校校長 高田 純一

平成26年4月に着任いたしました高田と申します。前任は江戸川区にある紅葉川高校で、校長としては本校が3校目になります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、すでに本校ホームページなどご存じの方も多いと思いますが、今年度入学生から、教育課程を全面的に変更しました。2年次から文系・理系に分かれることが一つの特色になっています。そのため、「篁会特別セミナー」の受講対象を2年生から1年生にシフトさせる必要性が生まれました。今年度は移行期のため、1、2年生両方を対象とすることになり、例年にないご負担をおかけすることになりますが、どうぞよろしくお願ひします。

ところで、今なぜ2年次文理分けなのかという疑問が生じると思います。大学では国際教養学部などの設置が流行し、学問の学際化が進んでいます。リベラル・アーツを標榜する大学も多くなっています。本校生徒と大学入試の面接練習をしても、「単位互換」「他学部履修」といった用語がしばしば登場します。学問の垣根は確実に低くなっています。

そのような現代にあって、なぜ時代に逆行するようなことをするのか。もちろん私も、文理分けが遅ければ遅いほどよいという理想論は承知しています。幅広い教養を身に付けた方が将来大成するということを否定するつもり

もありません。しかしながら、現実を見たとき、文理分けが遅いことを隠れ蓑にして、楽をしてしまう者がいるのではないかということが危惧されます。将来のことを考えることなく努力を怠る者がいると、全体の雰囲気も損なわれ、模試などの成績もズルズルと下がって行ってしまう。こうしたことを防止するための特効薬として2年次からの文理分けを導入しました。已むに已まれぬ決断であったことをどうぞご理解いただきたいと思います。

ここで、都立高校の歴史を確認してみたいと思います。20世紀後半は「都立高校凋落の時代」でした。都民からの信頼を失いがちとなり、都立に行くに塾が必要な上に浪人になってしまうということがしきりに言われました。一転して21世紀は「都立高校復活の時代」を迎えています。現在、どの地点にあるかというと、私はまだ2合目にすぎないと考えます。すでに高校入学段階では、国私立高校よりも都立高校を選ぶ人が増えてきています。しかし、本当の意味での復活のためには、小学生の保護者に「無理に中高一貫校に行かせなくても、竹早がある」と思っただけのところまで行く必要があると思います。そのために、中高一貫校のように高3の内容を高2までに終わらせるということはありませんが、せめて文理選択を早めて、少しでも早く進路を意識させ、生徒の進路希望を実現させることにより、都立高校復活をより確かなものにしたいたいと考えます。

「篁会特別セミナー」の受講が1年早まることは、以上のことを「象徴する出来事」と捉えています。皆様のご理解とご支援を重ねてお願ひ申し上げます。

特集

高校25回生(筈73回生)

「あのことろ」「これまで」そして「これから」

—高度経済成長の終焉・学生運動の終末・バブルとその崩壊・

グローバル化の時代を生きて—

私たちが過ごした竹早高校時代は、ある意味で区切りの時期でした。入学した1970(昭和45)年は、大阪万博の開催、ポーリングブームの到来、マクドナルドの1号店オープン、歩行者天国の実施など、本格的な消費社会に向かう時代でした。一方、日本の各大学で急速に拡大した大学紛争も多くの大学では沈静化に向かい、学生運動も転換点を迎え、私たちが入学した直後の新宿高校校舎を間借りしていた1学期こそ、臨時の生徒総会が連日開かれるなどその余波はありましたが、2学期以降現校舎に戻ってきてからは「平穏な」高校生生活でした。その当時の「三無主義」、「しらけ世代」という流行語に代表される雰囲気そのものだったのかもしれませんが。しかし、高校紛争時代に停止したクラブ活動の復活が始まり、私も野球部に入部し、3年生2名、2年生1名、1年生3名だけでキャッチボールとランニングだけの部活だけでしたが、再建したいという意欲はあったように思います。また、学園祭などもクラスやクラブで自主的にいろいろな催しに向けて夜遅くまで準備をし、一生懸命取り

組みました。

そして、受験という重圧を感じつつ迎えた1973年は、卒業直後、オイルショックを契機とした戦後最大の不況となり、省エネにより深夜放送が自粛され、小松左京の『日本沈没』がベストセラーになるなど、高度経済成長が終焉しました。

それから40年以上経過し、1980年代のバブルとその崩壊、1990年代の平成不況、2000年代の中国など新興国の成長など大きな変化の中で、私たちはそれぞれ社会生活を送ってきました。そして今、私たちは還暦を迎えました。60年という人生の節目に改めて高校時代をじっくり振り返ると、懐かしい思い出が蘇るだけでなく、今までの自分の人生にいろいろな意味で影響を与えた高校3年間だったということを感じさせられました。そこで、今回の特集では、高校時代の過去と現在を繋ぎ、さらにはこれからの未来を語ろうというテーマにしました。人生の「これから」を豊かにするために…。

長谷部 勇一

紛争後の自由な雰囲気の中で

竹早の思い出

加々美 勝久 F組

私たちの3年間は自分にとってその後の人生を大きく決定づけた時期といえます。社会にとっても激動の昭和40年代後半でした。

昭和45年4月入学の私たちは、まず新入生として通い始めた校舎は都立新宿高校の旧校舎でした。新宿南口から国道20号甲州街道沿いに四谷方面に歩いて行き、明治通りを越えたところに、門が…。塀と合わせて実に趣のある校舎でした。昔ながらの都立の常である大部屋の職員室はなく各教科の「研究室・準備室」単位の教員室で先生方は執務していました。我が担任の旧姓金杉先生もそのお部屋を使っており、入学後の面談をそこでやっていただいたことを鮮明に覚えております。さて、私たち73期生は夏に竹早町(文京区小石川四丁目)に引っ越すまでの約4ヶ月の新宿での生活でしたが、実に様々な体験をすることができました。



新宿高校の校舎での生活で印象に残っていることを2つあげますと、中学校を卒業したばかりの新入生は、「さあ勉強するぞ!」(と思ったかどうかは定かではありませんが)と毎日弁当を持って登校すると、「本日生徒総会」の張り紙。そうなんです。私たちが入学したときはまだいわゆる高校紛争の余波が残っていて「民主的な学校運営」を学校側に要求・認めさせるための生徒総会が不定期に開催されていました。その前年には東京大学の入学試験が中止、秋には新宿西口では左翼による騒乱・破壊活動が。この生徒総会では、会議の進め方をしっかり学ぶことができました。これはその後の私の職場に入ってから議長としての会議進行に大いに役立ちました。

もう一つ。これは今ではあり得ないことですが、私たちの体育の授業は、東京体育館のグランドでした。これもすばらしいことですが、それ以上に往復に新宿御苑を横断して甲州街道から千駄ヶ谷を往き来していました。これが最高でした。体育科の先生方には大変だったことでしょう。2時間続きの設定ではありませんでしたが、実際の授業時間はかなり削られていたかとおもいます。3・4時間目が体育の時間がチャンスです。学校を出るときに弁当を持って出て、帰りにみんなで新宿御苑で弁当を広げ優雅に昼食。さらに終わると昼休みぎりぎりまで御苑の中を探検して歩きました。このとき都立公園の入園料は無料の時期でした（実はこれにより公園が荒れてしまいました）。これは10年後に役に立つことになります。このような生活も夏まででした。

さて、新校舎が完成し地元に戻ると、地上5階建てのピカピカの新校舎。とても感動してうれしかった思い出があります。ただ、確か1年生は5階だったので、かなりえっちらおっちら階段を上っていった覚えがあります。新校舎に移ったとはいえ体育館も校庭もまだ整備されておらず、体育館は文京区立湯島体育館までバスの回数券をもらって往復しました。何しろ異例続きな高校生活でした。ただ未だに忘れられないのは、プラスバンド部（当時はこれが正式名称だったと思います）の練習がちょっと遅くなると、音楽室で定時制の授業は始まり楽器の片付けができず、教室の窓からみんなで南の空を見て時を過ごしました。南側は神田川に向けて低くなっていたので、5階からは視界を遮る建物もなく夕方日が暮れていく様子を見ていました。そのとき空は東から暗くなっていき、青から黒へ変わるグラ

デーシヨンの美しさに感動した覚えがあります。その後あのような美しいグラデーシヨンの空を見たことがありません。そうそう、都電も大塚～文京区役所間の最後の運転の年でした。

3年間は部活動、合宿、奈良京都へのグループ活動を中心とした当時としては先進的な修学旅行。宿泊地の多武峰ホテルで食べた義経鍋。どれをとっても良い思い出です。そういえば、この学年はクラス替えがありませんでしたね。これも珍しいことでしょうね。

忘れてはいけないのは、私たちをご指導くださったすばらしい先生方です。それぞれの授業で力を付けていただけたと思っています。今考えても斬新な授業形態をとられていた先生方も多くいらっしゃいました。今でも出てくる「ニブイオメガサインファイ(2vw sinφ)」といったら…。旺文社大学受験ラジオ講座でご活躍の先生方等々、私たちの今日があるのもこのような先生方のおかげです。

個人的な思い出を。竹早高校の図書室にはなんとブルバキの原論がそろっていました。手にとって読んでみても全くわかりませんでした。でも自分がその周辺をやることになるとは思っていませんでした。

最後に、ご存じの方も多いかと思いますが、新宿高校の今は、かの「青春の門」ともいえる門や塀はもとより校舎そのものも跡形もなく無くなり、甲州街道の道路の様子もすっかり変わっています。新宿高島屋なぞにいかれたときにはちょっと東を見てみてください。

放課後のアップルパイ



倉田 淳 (河内淳子) C組

気付けば還暦を迎えていた、というのが実感だ。この世に生を受けての60年が、それこそ本当にアツという間に過ぎていた。その内の3年間、竹早で過ごした16歳から18歳までの時代は、今でも私の中に生き活きと在り、懐かしさと愛おしさに胸が締め付けられる。もしかしたらあの3年間が、人生で無邪気にいられた最後の時代だったかもしれないと感じるからだ。

あのころ…そう、私達の入学式は小石川の校舎改築のため仮住まいしていた新宿高校、旧校舎で行われた。取り壊し直前の古く薄汚れた建物の上、ペンキの落書きや壊れた壁など前年まで吹き荒れていた学生運動の痕跡があちこちに残っていた。1970年前夜、学園紛争の嵐が吹き荒れる最中、竹早も高校生には珍しくバリケードを築きストライキを行っていたのだ。教師のリポート問題に端を発した闘争は、全ては自己責任の下に生徒自身の自由を尊重するという生徒権宣言をもって終結を迎えていた。厳しい校風で有名だった竹早は生まれ変わり、自由が闊歩する学園となったのだ。その第一号の新生が私達73回生だった。制服は廃止され、タケノコ結びのタイを結ぶセーラー服は標準服と呼ばれるに



過ぎなくなった。私達はGパンを履き、隣接する新宿御苑でお喋りの花を咲かせ、下校時は新宿紀伊国屋地下に寄り道しソフトクリーム三昧の日々を送っていた。高校受験という人生初の試練をくぐり抜けた16歳は、解放感の中をはしゃぎ回っていたのだ。秋になって小石川の新校舎に引っ越してから、はしゃぎ感は続いていた。勉強そっちのけで全力を注いだ文化祭、茗荷谷駅への途上にある喫茶店でのお喋り、放課後まで燃え続けたトランプゲームの大貧民…悩み事もそれなりにあったはずなのに、思い出すのは楽しかったことばかりだ。一番のバカバカしい思い出は、校門の前の道路を挟んだ向かい側にあるフジモリというパン屋さんでアップルパイを買い、その横道を下った地下鉄丸ノ内線を見下ろす陸橋の上でアップルパイを齧りながら地下鉄に手を振っていたことだ。乗客や乗務員が手を振り返してくれると歓声をあげハイテンションになっていた。何がそんなに面白かったのだろう、何がそんなに楽し

かったのだろう……今現在の自分には、自分のことなのに解らない。リアリティに満ちた現実生活の中、ただひたすらに懐かしく愛おしい感覚だけがあるのだ。しかし時は確実に過ぎてゆき、はしゃぎの季節にも陰りが射し始めた。竹早で迎えた3度目の夏頃から大学受験という重圧が押し寄せてきたのだ。もちろん高校入学当初から大学受験を目標に真面目に勉学を重ねてきたクラスメイトも大勢いた。呑気に構えていた私の気が回らなかつただけだ。受験に指針を据えた友人たちの中、私は大好きな観劇と読書にのめり込んでいった。秋が来て貯蓄の準備を始めないキリギリスだった。

これまで……そう、案の定、受験にはことごとく失敗し、浪人生活を余儀なくされた私のこれまでは、現実生活との相克に他ならない日々となった。早く芝居を始めたい私と進学を命ずる親との相克、翌年やっと入った大学に魅力を感じられない自己との相克、やがて芝居の現場に携われるようになったものの理想と現実との相克、それならばと自分の手で劇団を立ち上げたものの現実社会を生き抜くための相克は、次から次へと絶え間なく立ち現れるのだ。竹早という自由の園で培われた心が、生き延びる方便としての妥協を潔しとしない質を植え付けてしまったのだと思う。自由と責任という人生の根を、多感な10代後半を過ごした竹早時代に植え

られてしまったようだ。心のままに生きようとするれば、痛い思いをするのは当たり前だ。世の中、甘くない。次から次へと立ち塞がる目の前の問題を片付けているうちに、劇団を作ってから30年が経ってしまった。そして特筆すべきことは、この間、絶えず励まし力になってくれたのがアップルパイを齧りながら地下鉄に手を振っていた友人達だということだ。あの時代、無邪気の日々の中で、私は人生の宝物、かけがえのない友人達に出会っていたのだ。心が解放された無邪気の中で出会ったからこそ、40年以上に及ぶ付き合いをしてもらっているのだと思う。今では、大切な友人のお嬢さんが演出助手として、いつも隣で絶大なサポートをしてくれている。そしてつい先日、芝居を観に来てくれていたもう一人の大切な友人のお嬢さんと劇団メンバーが結婚式を挙げた。竹早で出会った友情が輪を広げているのだ。学校群という振り分けの中で、歯車が一つ違えば出会えなかった友人達だ。運命の出会いに、そして無邪気を許してくれた竹早の校風に感謝を捧げずにはいられない。

そしてこれから……老いてなお自由を忘れず、善く生き、人生をまっとうできたらと願っている。アップルパイを齧りながら地下鉄に手を振っていた風景を心に刻みながら。

竹早祭での剣道部の劇のこと

関川 雅彦 E組

私たちが竹早高校に入学したのは、70年安保の年といわれた1970(昭45)年4月でした。当時は5階建ての新校舎(現在の校舎の前の校舎)を建設中で、新宿御苑に隣接した新宿高校の旧校舎に間借りしていました。入学式も新宿で行われ、新校舎が完成した7月まで新宿に通学していました。あの頃の新宿は、淀橋浄水場跡(今の新宿副都心)では京王プラザホテル(完成した時点で日本一の超高層ビル)が建設中でしたし、前年の新宿駅西口地下広場(後に地下通路)でのフォークゲリラ事件の記憶が鮮明で、街全体がなにかざわついている印象がありました。

入学したての頃の高校生活は、中学校との違いに驚く毎日でした。まず、クラスの男女比が2:3で女子生徒の方が多くことに戸惑いました。旧制府立第二高女の伝統が残っているのかと思いました。5月になると生徒総会が2日連続で授業を中止して開催され、学校側を迫る上級生の姿を目の当たりにし、彼らがとてつもなく大人に見えました。高校紛争の影響がまだ色濃く残っていたのか、生徒の自主性をかなり尊重していると感じました。後に2年生に進級する際にクラス替えをするかどうかは生徒の投票で決めましたし、修学旅行の行き先も各クラスの旅行委員を中心に決めました。

クラブ活動は剣道部に入部しました。剣道部は一時活動を停止していたのを、私たちが入学した年に復活したとのこと。入部したのは男子が4名(うち経験者3名。2年生の時にもう1人入部)、



女子が5名でした。練習は、東京大学の本郷キャンパス近くにあった文京体育館の2階の道場で行っていました。7月に新校舎は完成しましたが体育館はまだなく、学校側が練習場所を確保してくれたようです。文京体育館には春日通りを走っていた都電で通いましたが、乗車券は学校側が用意してくれたと記憶しています。

剣道の公式試合の場合、男子の団体戦は5名必要で、1年生の頃は1学年上の先輩たちと一緒に出場しました。他校は3年生が中心ですから、1、2年生混成の竹早高校はだいたい1回戦で敗退していました。しかし、翌年の4月には、剣道の経験のある(しかも実力のある)新入生が大量に入部してくれました。公式試合には相変わらず1、2年生混成で出場しましたが、2回戦もしくは3回戦くらいまではコンスタントに進めるようになりました。当時の都立高校としてはまずまずのレベルではなかったかと思います。なにより、新生剣道部ということもあって、運動部特有の上下関係の厳しさはなく、自由で明るい雰囲気でした。

2年生の秋に、部長だった高木順之くんが私のところへやってきて、今度の竹早祭には剣道部は劇をやる宣言をしました。運動部は文化祭では他校との招待試合などをするのが普通で、劇と

は前代未聞です。どうも個性派ぞろいの1学年下の連中が企画したようで、演目は「大忠臣蔵」とのことでした。主役の大石内蔵助はもちろん部長の高木くん、私は浅野内匠頭を演じるようにとされました。台本は1年生が執筆して印刷し、衣装やかつらもほとんど手作りし、剣道の練習をせずに劇の稽古を重ねました。

劇は3階の社会科教室で開催したと記憶していますが、どうしたわけか大入り満員という状況でした。私が演じる浅野内匠頭は出番が少ないこともあってセリフはしっかり覚えていましたが、当日になると出演者は次から次へとアドリブを連発する始末で、当然即興の受け答えが必要でした。これがかえって観客に受けたようで、会場は爆笑の渦でした。初日のドタバタ劇が評判を呼んだのか、翌日は初日以上の入りでした。そうなる出演者はますます悪乗りして初日とまた違ったアドリブを入れ、まるでコントのような『大忠臣蔵』になってしまいました。とはいえ、剣道部の劇は大成功でした。

3年生になる春休みの関西方面への修学旅行が終わると、私

たち3年生は受験勉強に気をとられ、練習に出る回数も減り、クラブ活動は事実上、引退状態になりました。秋になり再び竹早祭の季節がやってきました。今度の演目は『ロミオとジュリエット』でした。3年生になっていた私はさすがに出演するつもりはありませんでしたが、前部長の高木くんは今回も主役のロミオ役で出演するといので、結局、私もロミオの敵役であるパリス役(またもすぐに殺されてしまう役でした)で出演しました。この『ロミオとジュリエット』も悲劇というよりも喜劇のような内容になりましたが、好評でした。

竹早高校を卒業した年、剣道部はまた竹早祭で『伊豆の踊子』をやると聞き、見に行きました。自分が出演している時は役を演じるのに精一杯であり恥ずかしさというものは感じませんでしたが、観客として後輩たちの劇を見る段になるとこちらのほうが妙に照れてしまい、まともに顔を上げていられなかったのを覚えています。

それ以来、40年以上竹早祭からは足が遠のいてしまいました。が、剣道部は今でも劇をやっているのでしょうか。

友との日々 竹早高校



座談会参加者 (F組) 片居木 則江 (伊東康江) 中伏 (小白) 顕子
貫井 (高井) 百合子 古家 昌子



(写真左から) 古家、中伏、片居木、貫井

この原稿を書くために幹事を中心に4人の女子が集まった。幹事が困っていると聞けばさっと数人が集まれる。それも頻りに開いてきたクラス会のおかげか。私たちF組は卒業以来2年に1回ほどの間隔でクラス会を開いてきた。クラスの自慢といえばそんなことぐらいである。ありふれた日常を送っていた高校生時代、書くことがあるのだろうかと思った座談会(おしゃべり会?)であったが、たくさんの思い出が甦ってきた。当時はかわいかった女子高生の日々を気ままに綴ってみたいと思う。

私たちが入学したのは1970年。昭和45年大阪万博があった年だ。竹早高校は校舎建て替えのために新宿高校に間借りしていた。初めての電車通学が大繁華街の新宿であったり、入学して暫くは新宿高校の古く薄暗い講堂で頻りに開かれる集会で授業があまりなかったりと、急に大人になった気がした。

ありふれた日常の記憶はなぜか食べ物へと結び付く。食べ物にまつわる思い出が次から次へと出てきた。学校帰りに寄り道した甘味屋さん。お昼にお世話になったフジモリのパン。ちょっと贅沢して行った洋食屋さんの本格的なプリン。正門前のラーメン屋さん。(文化祭の時に前を出て叱られた男子がいたね。)でも、ただいしんぼうだったわけではない。いつもそこには友だちがいた。食べ物は当時の女子高生のコミュニケーションツールだった。

紛争後、何事も自分たちで決めることができた時期。修学旅行もその一つ。どこに行くかアンケートを取った。96時間以内に帰って来るならどこに行っても良かった。なのに、選んだ場所は「奈

良・京都」。なんと安易な私たちの選択。新幹線で行ったのだが、「夜行列車で行ったよね。」「それは中学の修学旅行!」定番すぎてみんなごちゃ混ぜだ。40数年前の思い出は遠くになりけり。

クラス替えも然り。1年生から2年生になるときにクラス替えをするかどうかについても生徒の投票で決めた。僅差でクラス替えはしないことに決まり3年間同じクラスとなった。クラス名だけ順番を変え、私たちはD組からF組に。3年間一緒に仲のよいクラスではあったかなと思う。卒業アルバムのクラス集合写真では誰が言っていたのか、「みんなで揃って標準服で写ろうよ。」女子はセーラー服、男子は詰襟だった。普段は、ほぼだれも着ていない標準服。その日に忘れて授業を抜け出し家まで取りに行った人もいたね。

スキースクールもあった。1年生の時は日光湯元。2年生では奥志賀高原。上級生が実行委員を作り企画運営をしていた。卒業生の先輩たちがインストラクター役。その先輩たちがなんとカッコよかったことか。2年生のときには、リフトを幾つも乗り継ぎ林間コースを滑り下りてきた。その時の爽快な気分は今でもはっきり思い出せる。素敵先輩とともにとても楽しい思い出である。

文化祭。1年生は「古い屋」。2年生は映画作り。3年生では喫茶店。その中で一番思い出に残っているのが、2年生の映画「シンデレラ」。全校の中でも評判がよかった。主役からスタッフまでクラス全員が一人一役。スタッフ紹介という形であってもとにかく全員が画面に出ること。ロケ地は古河庭園。当時は8ミリカメラでの撮影。無声映画で弁士付き。本格的だった。配役はすんなりはま

った。「その役は彼女しかいないでしょ。」といった具合で誰もが納得の配役であった。話し合いから文化祭当日まで一気に乗りの良さとまとめ上げた。クラスがまとまり一つの作品を仕上げたことは、F組の一番の自慢である。

清里。1年生と2年生で1回ずつ行った。1年生、入学してすぐの5月。夜、星を見ようと宿舎の屋上へ。男子の一人がギターを上手に弾いてくれた。みんなそのギターの音色に、「素敵ねー。」とうっとり。泊まりがけのホームルームで一気にみんなの距離が縮まった。

先生。1年、金杉先生(後に結婚されて谷治先生)。2年・3年、立野先生。立野先生は20年ほど前に亡くなられた。金杉先生は、今でもクラス会に毎回出席して下さる。入学したての私たちと年も近く、若くて美しく優しい先生。女子からも男子からも憧れの先生だった。私たちと年の差を感じさせない、というより年々その

差が縮まっていくようである。いつまでも若く、私たちの前を歩む人生の先輩であってください、先生!

勉強。思い出の中には勉強のことはほとんど出てこない。好きだった教科、おもしろかった授業はもちろんあった。でも思い出の多くは「友との語り」だ。本当にたくさんのおしゃべりをした。他愛のないことから人生や社会についてまでよく語り合った。その中で私たちはお互いに刺激し合い学び合い自分を成長させていったのだ。ありふれた日常の高校生時代と思ってきたが、その中に大切な友がいて今の自分があるのだと思い至る今回のおしゃべり会。60歳の節目に自分を振り返る良い機会となった。その夜、かわいかった女子高生時代に思いを馳せた4人のおしゃべりは果てることなく続いた。

池袋にて(文責:古家)

竹早高校での3年があったからこそ

竹早生だったから、今の私がある

池田(丸山)秋子 E組

竹早高校に通っていた頃を今あらためて思い出すと、先生方から教えていただいた事や忘れられない出来事が多く、私の生き方や考え方を導いてくれた時代だったと思います。

担任だった英語の綿貫先生には3年間お世話になりました。綿貫先生は私たちを生徒としてというよりは、対等な一人の人格として接してくださいました。私なりに、英語は必死で勉強しましたが、2年生まででした。私たちは、テストや成績の悪さを注意されたことはありませんし、授業中におしゃべりがあったとしても、(わがクラスは、大変静かでした)注意されることはなかったと思います。3年生の1学期だったと記憶していますが、通知表にクラス内の順位が書かれたことがありました。綿貫先生は、「順位はあまり必要ないものですし、鉛筆書きですから、消したい人は消してください」とおっしゃいました。大人として扱っていただいているからこそその対応でした。でも、絶対に親に知らせてはならない私のその番号は、今でも記憶に残っています。

また今年も、1年が、過ぎ去っていきます。誰にも時間は平等に流れるといいますが、私たち篁会73回生にとっての1年は、60歳にとって1年、1/60年です。1才になった私の孫の1年は1/1年。子どもだった頃、1年は長かったです。1日も…。分母が違うと、時間の感覚がちがいます。年齢によって時間の速度は違いますよね、数学的には間違っていますか、宮尾先生!

宮尾先生に数学を教えていただいた竹早高校時代は、あっという間に過ぎたように思いますが、分母が15~18だった3年間は、今の私たちの4倍は時間がゆっくり流れ、密度の濃い3年間だったのではないのでしょうか。

「数学は美しい!」と、口角に泡をため、授業のたびにおっしゃ



っていた宮尾先生でした。私は中学までは大好きだった数学がわからなくなり、コンプレックスを感じながら席に座っていました。でも、数学という学問が、大の大人をこんなにも心酔させる魅力ある世界であることは、伝わってきました。宮尾先生の夏休みの宿題は、「大数学者」という本の感想文でした。高校時代の衝撃的な思い出ベスト2です。(ベスト1は、前記の成績の順位です。)天才数学者たちの子供の頃からのエピソードが書かれた本の感想です。数学はどんどんわからなくなりましたが、計算や証明という表層の学問ではないこと、人間の頭の中でつくられながら、宇宙の神秘に迫る学問であるということは、強く心に残りました。

「本当の算数(数学)には正解という言葉はないよ」、「計算が出来るのが算数じゃないよ」と子どもたちに話すことがあります。私は小学校の教師として、生きてきました。

「こりゃあ、美術クラブに入ったらいい」石膏像をデッサンしている私の絵を見て、美術の小野先生に声をかけていただきました。勉強がぜんぜんだめだった私には、うれしい言葉でした。でも、デッサンしながら、おしゃべりしていて「よー、しゃべるなあー」と、叱られてもいました。初老の小柄な先生でしたが、そのエネルギーで大胆な制作に圧倒されるばかりでした。美術を選択したり、クラブに所属したことのある生徒たち・卒業生たちに、伝説的な人気のある先生でした。

私は美術を選択し、美大に進み、教育実習でも竹早高校にお世話になりました。小学校の図工専科の教員になりました。小学校で図工の授業だけを担当する教員は、全国的にはほとんどいません。東京都にだけある制度といえます。

「日本の先生は、子どもに絵を教えすぎる。だから子どもの絵が大人の下手な絵になっている。ヨーロッパじゃ、子どもたちが絵を

描くとき、ほったらかしだよ。何にも教えない。だから子どもじゃなきゃかけない絵がある」と、小野先生はおっしゃっていました。

小野先生からいただいた、この図画工作科の課題と、日々向き合いながら、私は小学校の図工の先生として、生きてきましたよ、小野先生！

富士山麓に4世代で



小林（光野）えり子 B組

竹早高校を卒業して四十数年が過ぎました。

今、私は、世界文化遺産に登録され注目度アップの富士山の麓の町、富士宮市に住んでいます。朝・夕、四季おりの富士山の姿は何年経っても新鮮で、眺める度に心洗われる思いがします。

今回これを書くに当たり、高校時代のアルバムを久しぶりにめくり、いろいろ思い出しては懐かしく、まさに私の「青春時代」を過ごした3年がよみがえってきました。仮校舎の新宿高校に通った日々。中学から続いていた軟式庭球部に入部し、屋上で朝練をした後、着替えながらレモンのはちみつ漬けをみんなでほおばったこと。体育の水泳の授業で東京体育館に行くのに新宿御苑を突っ切ってわいわい楽しかったこと。その後の化学の授業での化学記号を読み上げる先生の声がとても心地よい子守歌に聴こえたこと。物理のテストが悪くて冬休みの宿題がプリントで何枚も出たため息をつきながらの正月だったこと。勉強に関しては良い思い出があまり無いような気がしますが、部活の時間になると気分一新。試合で良い成績は残せなかったけれど、みんなで頑張った夏合宿、赤羽のテニスコートまで電車で通ったこと



など、楽しい仲間たちとの充実した時間は今でも私の宝物です。

そして、大学時代も続けたソフトテニスのおかげで富士宮に来ることになったのですから、テニス万歳というところでしょうか。今では同じ敷地内に3軒・4世代が暮らしています。主人の両親・私たち夫婦・息子夫婦と孫2人、計8人の賑やかな家族です。定年して2年目の主人は田んぼで米を、畑でさまざまな野菜を作っては採りたての新鮮な作物を収穫してくれます。3歳の孫も時々一緒について行っては種まき、水やり、収穫など、土に親しみのどかな時間を過ごしています。田畑の労働の筋肉痛と2人の孫の子守りの筋肉痛、どちらも痛いながらもとても幸せな痛みと疲れに感じます。部活でしごかれ、階段の登り降りに苦労したあの筋肉痛とは一味違った還暦過ぎの痛みもまたおつなものですね。

これからは、たくさんの可能性を秘めた子供たちの明るい未来を祈りつつ、私たちも少しでも長く見守っていけるよう元気で過ごしたいと思います。

グローバル化の流れの中で

いくつかの外資系企業で仕事をして



藤田 守哉 A組

先日30余年ぶりに行われたクラス会に参加した。山田徳蔵先生をはじめ22名のクラスメートに久々に会うことができた。それぞれに年を取り還暦を迎え、それなりに変わった面影に始めは誰だか分からなかったクラスメート達も、10分も話をするうちに皆高校時代の懐かしい顔にもどった。家に帰って振り返ってみると、今どこの会社でどんな仕事をしているのかという会話はあまりなく、高校時代の懐かしい話で盛り上がったように



思う。あつという間に40年も昔に戻ってそんな話のできる機会
は最近全くなかったので、ある種の感慨にとらわれた。竹早高
校を卒業し大学に進み、その後何十年も働き続けてきて還暦
を迎えた今思うと、あつという間に時間が過ぎ年を重ねたんだ
など思う。

私は28歳の時、結婚を機に勤めていた会社を辞めアメリカ
に渡った。大学院に行った後10年間ロサンゼルスでコンサルタ
ントとして働いた。子供が2歳になったのを機に日本に戻り、そ
の後いくつもの米国系の企業に勤務しずっとアジア地域の仕
事をしてきた。今は某アメリカのブランドの日本の責任者をして
いる。

今回この文章を書くにあたって、少し後ろを振り返ってみ
た。その中で自分が幸運だったと思うことがいくつかある。ま
ず、日本を外から眺める機会があったこと。12年をアメリカで過
ごし(日本のバブル期を経験できなかったのは幸か不幸か今も
わからないが)、その後仕事でアジア・ヨーロッパのほとんどの
国に何度も行く機会があった。アメリカ人をはじめいろいろな
国の人たちと一緒に仕事をしてきた。今もしている。外から日
本を見てみると、勿論ダメなところもよく見えるが、それ以上に
日本の良いところをあらためて知ることができたと思う。日本の
文化、人の優しさ、食べ物の豊富さと美味しさ、素晴らしい景
色、便利さ、安全さ。桜が満開の季節には日本人に生まれて
本当に良かったと思う。

次に、外資系の会社を6社経験した。一つの会社にずっと
勤め上げる人からすると、「なんてところ会社を変わって落
ちかない奴だ」と感じられるかもしれないが、会社を買収され
たり部門が撤退したり、ヘッドハントされたりして6社になっ
てしまった。良くも悪くも外資系の職場は動きが早く短期の成果を

問われる。特に立て直しや新ビジネスの環境に身を置いてきた
ので、ずっとプレッシャーの中で仕事をしてきた。そんな環境で
仕事をしてきたこともあり、なかなか普通では体験できない密
度の濃い仕事生活を送ってこられたと思う。いろいろな肌の
色の人、違う言語を話す人、異なった宗教や常識の人たちと
一緒に仕事ができた。苦労も多かったけれど今思うと楽しいこ
との方が多い。

子供は娘が一人だったけれど、今年無事大学を卒業し、社
会人として仕事をはじめ家を出て一人暮らしを始めた。仕事と
出張ばかりで、あまり家にもいない父親だったけれど、グレもせ
ず、ギャルにもならず、「お父さんウザい」とも言わず、いい子に
育ってくれた。幸運としか言いようがない。

そんな幸運の大きな基礎を作ってくれたのが、竹早で過
した3年間だったのではないだろうか。当時の私はあまり物事
を深く考えず、かと言ってがむしゃらに何かをするでも無く、何
となく過ごしていたように思う。1年生の時は新宿校舎であまり
授業にも出ず、竹早の校舎に戻ってからも部活はやっていた
が友達とワイワイやっていた記憶しかない。我々の代は3年間
クラス替えがなく同じメンバーでずっと過ごした。多くの人とは
深く知り合えなかったけれど、クラス内の結びつきは強かったよ
うに思う。でもそんな中で、勉強だけでなく外の世界へのもの
の見方とか、人との付き合い方とか(世渡りの仕方と言っても
いいかも)そんなものを多く学んだのではないかと、今振り返っ
てみて思う。そんな時を一緒に過ごせたクラスメート達に感謝
し、久しぶりに再会できたことをとても嬉しく思った。みんなそれ
なりに良い年の取り方をしているみたいだ。また何年か後に会
ってそれを確認したいと思った。

地方勤務の楽しみ

吉田 浩 B組

昭和48年3月、竹早を卒業、本当に運良く現役で希望大学
に進学にし、高校時代と同様に楽しい4年間を過ごした。(当時
は現役入学は少なく、記憶では、同じクラスの男子では現役入
学は3割未満だった気がする)

受験を控えた高校生活をあのころは灰スクールなどと呼ぶ
事があったが、竹早ではクラスには、女子のほうが圧倒的に多
かったので天国のようであって、決して灰色ではなかった。教
科書、ノートは学校のロッカー。家庭科室では女子がよく何か
食べ物を作ってくれた。私立高校に行った友人が喫煙が見つ
かって、停学だ、退学だと騒いでいる時、我が方は先生から
「タバコは記憶力がおちるぞ」と見つかったもクールに注意さ
れるだけ。当時流行ったグランドパブでモスコミュールなんかも



飲んでた。なんといっても制服ではない私服だから何でも出来
た。そういえば、冬になると下駄箱の上に、下駄箱には入らない
女子のブーツが林立し、午後になるとそれらが、へなへなして
横たわっていたなあ。

大学卒業後は、親の健康問題も有り、海外勤務のない、ドメ

スティックな保険会社に入社。東京・大阪の本部・本社に20数年勤務し、その間に両親も片付いた。その後、山形・青森・長崎・水戸でそれぞれ3年ずつ単身赴任した。単身赴任はとにかく楽しい。金曜夜、事務所で「お疲れ様」といってから、月曜の朝、「おはよう」というこの2日半の自由時間。どこに行っても初めての場所。車があればどこにでも行けるし、どこにでも泊まれる。男の子だから失うものは何もない。そもそも最初の赴任地である、山形県というのは、あるのは知っていたが、東北地方での位置関係はまったくの不知であった。

単身赴任中は一つだけ原則を決めた。それは浮気をしない事。といっても、近隣他県への浮気をしないことであって、例えば、山形県では、隣の宮城や秋田の観光地などには行かず、ひたすら山形を舐めるように旅した。青森でも長崎でもしかり。場所によっては地元社員より詳しくなったところもあった。心に沁みる場所は沢山あったが、山形では釣りキチ三平の舞台とされる山深い田麦俣の集落の何の変哲もない道。青森では初夏の夕暮れ時の横浜町の広大な菜の花畑。きっと天国はこうなんだろうなと思った。長崎は街全体が面白く、雰囲気がある。長崎を和華蘭(わからん)町と言う。日本の和、中華の華、オランダの蘭。特に、入り組んだ路地にある、こじんまりした料亭で酒を飲んでると坂本龍馬になった気がした。

地方勤務で感じるのは、地方の精神的豊かさである。豊かさの第一は時間の豊かさ。通勤は皆、ほとんど車。車ではない人も通勤に費やす時間は30分程度。電車、バス、路面電車は当然混んでいない。ついでに高速道路も「本日休業かい?」と思うほど。休みの日はどこに行くにも混んではいない。20キロ先の目的地なら、必ず30分で到着する。豊かさの第二は家族の豊かさ。多くの家庭では三世同居か、同居してなくても近くに住

んでいる。親戚も近所。勿論、大都会に行く者もいるが、東京に比べれば、家族密度、一族密度は大変高い。これには、きっとイイ面と悪い面があるが、差し引きではイイ面が上回っている。東京生まれで東京育ちの私は地方の人たちにある種の優越感を勝手に持っていたが、どっこい地方もなかなかやるぞ。極端な言い方をすれば、ワインの味はわからなくても、そして洒落たイタ飯屋を知らない男だが、女房・子供を愚直に守れる。そんな人間が多く残っているといったところか。女性もたくましく、健康的。狭い見方かも知れないが、そういった傾向は強く感じた。

さて、地方勤務の楽しみの一つが食べ物と酒である。特に日本酒、しかも冷が好きで私としてはたまらない。そんな中で、昨今の和食・日本酒ブームで感じる事がある。「どこそこの日本酒は手に入りにくい、高価だ、幻の酒だ。やはり酒はどこそこの酒が美味しい。」こんな事を言う人が増えてきた。別に個人の主観だから目くじらを立てるほどの事もない。でも、粋じゃないよ。山形・青森は東北であり、酒どころ。また、長崎の酒は甘い。(ちなみに長崎ではお醤油も甘口)どこの酒も美味しい。しかし、どこの酒が一番美味しいかという、私はこう思う。酒だけを飲む人はあまりなくて、人は大抵、つまみ(あてと言ったりするが)を食べながら、酒を飲む。その土地のあてでその土地の酒を飲むのが一番マッチしている。山形の酒を兵庫のあてで飲んでもしっくり来ない。長き風雪の中で、その土地で生き続けてきた日本酒をその土地・港で獲れた野菜・魚がベストマッチなんだろう。ハワイでカウチンセーターは合わないし、アラスカでアロハシャツはたとえ寒くても、暑くてもやはり如何なものか。その土地では、その土地のものを飲み、食べる。そしてその土地の気候の中で美味いと感じる。感心する。60歳になった。そんな自然体で流れ木のようなジジイになりたいなあー。

いけばなと私

小堀 真里 A組

いけばなの流派に入門して、35年の月日がたちました。当初は、単なるお稽古事としての認識でしたから、私的な事情で長期お休みする事も多く、正味20年程かもしれません。習い始めの頃は、物事に集中して取り組む事が出来る、自分だけの時間を持つ事が嬉しく、お稽古は楽しい非日常でした。いけばなの最大の特徴は、間(ま)を活けるという事です。そこには、水盤活けの様に、水もまた花という考え方も含まれますが、私にとってのいけばなの、一番の魅力です。何段階かの課程を修了し、技術も習得し、ある程度活けられるようになりますと、大変に気分よく満足していたものです。ところが、ある時からそんな事の繰り返しがつまらなく感じられるようになりました。

きっかけは、ある流派の方が、「松が松に見えては、面白くあ



りませんでしょ」と、TVで話されていたのを見た時です。その時は、そんなものかしら? 松は松らしく活けてこそでしょと、思い流していたのですが。そもそも、松らしく活ける、とはどういう事なのでしょう。松らしい、という最大公約数に沿って活ける事に縛られる必要はないのでは? 今まで当たり前と思っていた事

に疑問符を持つようになってしまいました。

先の流派の方の言葉は、「花は野にあるように」という言葉と対極にあると思います。それぞれの流派の流儀により、多少の解釈に違いはあるかも知れませんが、出生の姿を大事にする、という考え方もあるこの言葉を、私は抵抗なく受け入れていました。しかしながら、花も枝も葉も、切ってきた時点でもはや自然の姿とは別物になっています。そこに活け手の手が加わるのですから「らしさ」とは、多分に活け手の主観に委ねられる表現の領域なのではないか、と思うようになりました。正解などありませんし、また求めるものでもありませんが、自分自身で追求して納得できる「らしさ」の表現は、一つのテーマとなりました。

一つの事に「なぜ？」と思い始めると、連鎖して次から次へと「なぜ？」が続いてくるものです。今まで何も考えずに歩いていた平な道から、突然に急な山道に、それも先の読めない険しい道に迷いこんでしまったようです。とはいえ、これは花材と向き合い、悩みながら進む楽しい修行の道でもあります。

「『悩む』とは、自分へ問いかける事、自分の心と対話を持つ事である。」これは、私共の流祖の言葉です。活ける時、どの枝や葉を残し、どの枝葉をカットするべきか、等々、知らずに自分との会話から決定しているものです。「そして、生かされる枝・葉のために醜い枝・葉をカットする事は、人間の醜い部分を捨て去

る作業である」、これもまた流祖の言葉です。流祖の言葉は、時に道筋を示してくれる道標であり、時に立ち止まって冷静にさせてくれる信号機の役目を果たしてくれているように感じます。

いけばなを通じて、いろいろな経験をさせて頂いています。私の大切な宝となっています。首相を経験されたある方の陶芸展で、挿花を担当した事があります。ご覧になられた方達が、これなら私でも活けられる、と思って頂けるよう、また、作品が引き立つように控えめに花を添えました。亡くなられた方のお別れの会で、献花をさせて頂いた事もあります。故人のお好きだった壺に、やはりお好きだった花を、遺影から見て一番美しく見えるように活けました。流派の派遣で、いけばなの講師を務めています。「教える事は教えられる事」を、身を持って実感する日々です。いずれも、「花」を媒介に、人々の様々な思いが交わります。そして、人間そのものを学ぶことも多い様に感じます。

いけばなの修行は、人間としての修練の場でもあります。それは、どんなお稽古事でも同じでしょう。いろいろな課題と取り組みながら、なかなか前へ進めぬ自身に悶々とする日々です。が、やっと踏み出せたこの道で、少しでも前へ進めたと感じられる日がやって来たとしたならば、どんなにか嬉しいことでしょう。そんな日を願い、自分に期待する日々でもあります。

還暦、これから迎える花盛り

金融機関の現場を離れ、 コンサルタントの立場から行う中小企業支援



若松 巖 C組

1. 始めに

10月12日と言えば家内の誕生日ですが、その日C組のクラス会があり20年ぶりに参加しました。26名の多数が出席したものの、参加者は顔・体型の変化が激しく、始めは「借りてきた猫」状態で居心地は最悪。やがて、声の記憶が蘇り次第に当時を思い出してからは楽しい時間を過ごしました。大学卒業後金融機関に就職、2年半前に早期退職し、コンサルタント会社で中小企業経営者のホームドクターとして各種の経営相談や後継者教育、取締役会への出席助言のほか「認定経営革新等支援機関」として各種補助金申請や経営改善計画の作成支援を行っています。この度、C組幹事から依頼がありましたので、拙文をお届けします。



2. これまでの金融機関職員としての対応と 企業の反応

35年間金融機関職員として、中小企業の融資・信用調査・管理回収を直接・間接的に手掛けてきました。この間、自分の社会常識不足や知識不足を手厳しく注意指導していただいた多くの経営者のおかげで一人前の金融マンになれたと感謝しています。その一方で、外部の紹介者・団体や新規申込先からの強引・高圧的な要求や恫喝、融資検討資料提供に非協力

な返済困窮先、返済不能段階での態度の豹変など多岐に亘る折衝場面で修羅場経験を積み、お蔭様でタフな人間になることができました。

もちろん、通常の金融取引を継続している企業とはいつもスムーズなやりとりを行ってきたと思いますし、業務外でも多くの方といまでもお付き合いをさせていただいています。

3. 早期退職し、コンサルタントとして、 企業と接した時の強烈な違和感

平成24年6月コンサルタント会社に再就職し、担当企業を抱えるほか個別受注として「経営改善計画書」の作成支援を行うようになって間もなく、金融機関勤務当時とは別の強烈な違和感を感じるようになりました。それは、企業経営者は金融機関に対しては常に「下から目線で対応している」ということ、その他に対しては親会社を除き(私たちに対して)「上から目線で見ている」ことでした。

「そんなことは当たり前」と言われかねませんが、第三者の意見提案について真摯な態度で聴くことがなければいずれ自己中心的な考え方に固まってしまう、経営判断を誤ることに繋がります。

そのほかの違和感は、会社の懐に入り込むことになったため、会社(経営者)の恥部に触れて共有してしまうことです。例えば、業績低下原因を外部にのみ求め内省意識が希薄、必要以上の粉飾、誤った節税意識による浪費、このほか修復不可能な内紛や法令違反等です。

4. 全ての企業を救うことはできないが、 全ての企業を見放すこともできない

60代は若葉なり



長谷部 勇一 A組

高校受験の発表日、41群を受けた僕らにとって、合格するかどうかだけでなく、小石川か竹早かも重要な発表だった。北区立清至中学校の友人3人と共に小石川高校に行き、その結果を見たとき、私だけが竹早であった。表向きは、友人の手前がっかりしたふりをしたが、内心は「女性が多いクラスは楽しいかも…」と納得していた。その後、新宿高校の旧校舎に間借りしていた時期は、とても楽しく、高橋某、佐藤某、小張某らに誘われて授業をサボることも覚え、新宿駅周辺や新宿御苑で遊んだ思い出の方が多い。また、中学時代から親公認で麻雀をし

企業が存続するための条件は、十分な手元流動性(現預金・受取手形・売掛金)、金融機関信用力(十分な担保、経営者信用)、十分なキャッシュフローに加えて黒字経営です。

黒字経営が最後に来る理由は、赤字経営でも前3要件を備え倒産しない企業が多いことを示しています。(因みに、国税庁統計によれば平成24年度分の法人252万社のうち赤字法人は178万社(70%超)に上りますが、大半は存続しています。)余談ですが、企業会計でいう「損益計算書」は、特定の1年間の業績を示すもので黒字か赤字が出ますので逆転ホームランがあります。しかし「貸借対照表」はその企業の歴史の積み重ねで構築されるため歴代経営者の手腕が現れます。コンサルタントとしてのクライアント企業支援も、依頼される経営改善計画作成支援も、企業経営者の真剣さ、誠実さ、熱意を感じられなければ引き受ける意欲は湧きませんが、過去の放漫経営を引き継いだ後継者グループが真剣に取り組んでいるケースは本気で引き受けます。

5. 中小企業に期待したい行動

ダーウインの法則の実践(変化に対応するものが生き残る)、部下やパートナーの意見の傾聴、支援者には事実をありのまま伝えることが大切です。

また、節税優先ではなく会社を強くするために外部人材の活用が必要です。優良企業ほど生産・資産税・資産運用などの専門家を「顧問」として抱え、自社の悩みや課題に対応しています。さらには、若い経営者や後継者には、業界団体活動より外部の異業種勉強会に積極的に参加し刺激を受けて欲しいと思います(例：稲盛和夫氏主催盛和会等)。



ていた私は、猪熊某と二人でA組の半数の男子に麻雀を教え、授業が終わると伝通院にある猪熊邸か、土日は北区王子にある我が家で、多いときは3卓を囲んで3年生になるまで麻雀大会をしていた。

さすがに、3年生が近くなると「受験」の二文字がだれの胸にも不安をよぎらせていた。そのある日の会話を、私の日記から

再現すると…。

1972年4月9日。今日プーの家で貴重な(?)土曜日の午後を麻雀で過ごした。久しぶりに真剣に打つことができた。でも、「受験」を考えると、3年生としての第一歩を少々踏み外してしまった観がある。打ちながらの話題も自然に「予備校」「添削」「ラジコ講座」なんてものに移っていった。やはり、内心に皆受験という言葉がへばりついているのだろう。

高橋某曰く「オレは、マンスリーでがんばるでヨー」

藤本某曰く「オレは、ラ講だモンネー」

藤田某曰く「オレも予備校行くけど、一種の気安めさ、キヤスメ。」

猪熊某曰く「ヤッパシ、そういうのヤラなくちゃダメカネー…」

3年生としての1年間は、予備校に通ったり、模擬試験を受けたりであつという間に過ぎ去っていったように感じる。ただ、高校3年間で冷静に振り返ると、遊んだばかりでなく、当時の高校の先生方からは、それぞれの教科を学問として教えてもらった気がする。というより、国語の山田先生、化学のオメガ先生、英語の綿貫先生、古典の金杉先生を代表として、みなそれぞれの教科が好きで熱意ある授業をしてくれたという印象があり、学問は面白いよ、ということ学んだように思う。

高校卒業後、大学に進んでから、1973年秋にオイルショックがあり、翌年は1960年代から続いた高度経済成長が終わり、資本主義経済は右肩上がりに成長するばかりでなく、不況を伴う景気循環で動いていくものであり、その解明が経済学に求められている、ということに気づいたことが後に大学院進学を決めた一つの理由となっている。もう一つは、1978年頃からのマイコンブームである。高校時代から数学は好きで、大学に入って

からも数学の勉強ばかりしていたこともあり、自分の手元で操作できるマイコンやポケットコンピュータはすぐ買い、ゲームを作ったり、連立方程式を解くプログラムを作成する作業に没頭していた時期もある。経済学には、計量経済分析や産業連関分析という分野があり、まさに好きなコンピュータを活かせる学問なので、これで飯を食って行けたらいいな、という気持ちになったことが第二の理由かもしれない。

大学の教員となった以降も、好きなパソコンと共に研究もすすめ、学生にもパソコンと現実のデータを使った実証分析を教えることに喜びを感じながら、あつという間に30年が過ぎたように思う。

そして、還暦を迎えた2014年10月に、藤田さんの音頭で久しぶりにクラス会を行い、再び、山田先生から“人生の面白さ”を教えてもらった。先生は、「突然余興をはじめます」といわれ、やわら姿勢をただと、「猪熊、岩本、小田、…」とクラス48名全員の氏名を点呼し、僕らもつられて「ハイ!」と大きな声で返事をし、まさに高校時代の3Aのクラスに戻してくれた。別れ際の挨拶では、「皆さん、60歳はまだまだです」といい、「40、50代は漬垂れ小僧、60代で若葉、70、80代花盛り」、「90代でお迎えがきそうになったら、エイエイオーとカラ元気だして、お迎えをふきとばせ!」と檄を飛ばした。それにつられ、僕らも一同、「エイエイオー!!」で締めたクラス会になった。

山田先生の檄と、久しぶりにクラスの皆と再会し高校時代を思い出したせいかもしれない。なぜか不思議と60歳の還暦がこれから始まる花盛りに向けて頑張ろうという気持ちにさせてくれた。これも、“クラス会の面白さ”かな、と思った次第である。

創立百周年記念誌「竹早の百年」、 「たずさえて友と写真で綴る『竹早の百年』」は 篁会総会でご購入いただけます。



税込・送料込
5,000円



税込・送料込
2,000円

■ 郵便振替でのお申込みは ゆうちょ 振替口座 00100-6-671972 篁会
ご住所、お名前、電話番号を明記の上、お願いします。 詳しくは篁会ホームページをご覧ください。

学年幹事・部活幹事連絡会 開催！

同窓会の輪を広げる会 キックオフ！



クラス会・同期会の活動では同年代としか接触が無く、卒業年次を超えて他の年代の方々と知り合うことは考えてもみませんでした。ところが様々な箕会活動の機会に知り合っ
て話してみると、思いもかけないほど楽しく、大変に価値のあるものであると多くの会員
が感じていることに、箕会では注目しました。

具体的には、様々な仕事での関わりや関心事・切り口が近い、スムーズに話ができたり
協力ができるなどの経験をし、同じ学舎で育った卒業生同士には想像以上に近い感性が
あることを感じています。

そこで今回、「竹早」という卒業生同士、会って話すことで縦・横のつながりを強め、互いに
元気や勇気をもらう取組みをスタートさせようと考えました。

まずはクラブ活動のOB・OG会の代表の方々にお集りいただき、OB・OG会活動が行
われている部の活動状況などをお伺いし、これから活動していこうと考えている部の参考
にさせていただこうと考えています。そこから多くの部活のOB・OG会活動を活発化さ
せ、箕会のネットワークを作り同窓会の輪を広げたいと思っています。

既に活動されている部活OB・OG会の幹事さん、あるいは現在OB・OG会は無けれ
ども今後活動したいと考えている部の皆さん、ご連絡ください！

第1回幹事連絡会を、以下の要領で開催します。

■日 時：平成27年7月11日(土) 17:00～19:00

■場 所：文京区役所周辺(詳細は、追って連絡します。)

■会 費：1,000円

連絡窓口：香川洋子

電 話：090-8853-1901

E-mail：takamurakai@gmail.com

第7回 箠会特別セミナー報告

箠会特別セミナーは昨年で7回目となりました。セミナーの新しい試みや生徒の反応などについて、セミナー事務局に伺ってみました。

■ 昨年度のガイダンスやセミナーはいつどのように
されましたか。また様子はいかがでしたか？

■ 生徒と保護者の希望者を対象にした土曜セミナーを6月15日に、また高校2年生の全生徒対象の特別セミナーを7月15日に実施しました！また、2年生には事前に6月9日のホームルームの時間にガイダンスをしました。今年の特別セミナーの内容を中心にご紹介します。

【今年の主な内容】 竹早高校卒業生で、現在現役で活躍している諸先輩が、今年も高校2年生の総合学習の時間を利用して45分×2コマでお話をしました。14セミナーの選択肢からチョイスして聞くことができる行事は、都立高校200校余りの中で竹早高校だけの試みでありませんが、今回で連続7回を数えています。

箠会では活動計画の柱のひとつとして「現役生に資する」OB/OGの活動を視野に入れて、奨学生選考や特別セミナー、教育支援などの具体的な企画を位置づけていて、これが箠会の活動の特徴のひとつとなっています。

【新たな挑戦】 高校2年生から選抜されたインタビューが、事前に『話し手』ひとりひとりに話を聞き、他の生徒に紹介をする形を取りました。より生徒の目線からセミナーを設営するという試みでした。その事前作業を承けて、6月9日に剣道場に集合した高校2年生には、事務局からガイダンスとして ①箠会って何 ②特別セミナーの狙いは？ ③各講座の内容はどうか ④セミナー選択のアドバイスは？ の内容説明を行い、その後、2年生のインタビューの語りにより『話し手』を紹介し、補足をしました。ガイダンスの最後には、挙手による希望調査をして本年度は14名の『話し手』により19講座の開設を決めました。登録は特別に作成したWEBで行い、「情報」の授業時間に入力を完了してもらおうという手続きをとりました。WEBの活用は一人ひとりに向き合うツールとして役立ち

ますが、「情報」科目の先生のご協力で本年も実施できました。14名の話し手の具体的な内容については、添付の表をご参照ください。

竹早高校/父母と教師の会/箠会セミナー事務局の協力で、今年も大過なく終えることができました。今年で活動で反省点がある点とすると、2年生のインタビューによる説明は、興味を持って生徒が聞いてくれたということで良い効果の反面、説明者のキャラや説得力の違いにより、バイアスがかかってしまい、例年よりも希望と実際がマッチしない傾向が見受けられました。ひとりひとりにあったセミナーを取ることがとても大事なことで、じっくりと選択を考えて選んでもらえるよう、少しやり方を工夫する必要がありそうです。工夫の仕方としてはインタビューだけではなく、もう少し生徒の関与をふやす形も一案かもしれません。

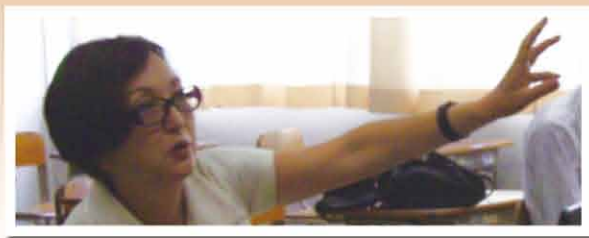
■ 生徒にお話される「話し手」の方は、どのような内容を話されて、どのような感想を持たれていますか？

■ 『話し手』の皆さんは、～の仕事と題してお話されて、仕事の内容、キャリアパス、仕事のやりがい、大変さと達成感、卒業生ならではの正直な感想、などなどお話をされます。具体的に本年度登壇されたお二人の方に、それぞれのセミナーの概要や狙い、感想・ご意見を含めて伺ってみました。

箠67回生の泉さんのお話は、「建築・デザインの仕事」と題したのですが、模型を使ったりご自身の建築作品を写真で紹介したり、生徒には大変印象の強い授業をされ毎年好評です。前田さんの「出版社の仕事」は、ご自身が、準備のためにパソコン教室に入門してパワーポイントをマスターされた上で、メッセージを見やすくまた構成感をもって表現されておられます。生徒からの支持のとても高い講座でした。

番号	話し手	内容	サブタイトル・主な内容
1	金杉憲治(筈78回生) 外務省本省審議官	国家公務員の仕事 (外交官の仕事) (国際機関の仕事)	国家公務員・外交官・国際機関の仕事とは 国家公務員になるには 苦労/やり甲斐
2	泉美知子(筈67回生) 一級建築士 インテリアデザイナー	建築・デザインの仕事	建築設計の仕事とは ・瑞木工房の作品をみていただきながら仕事の内容、流れを紹介 建築関連の資格と仕事について ・建築士(意匠、構造、設備)、インテリアプランナ、インテリアコーディネータ ・建築設計の醍醐味(と苦労)
3	前田文志(筈78回生) 出版事業	出版社の仕事 "本"を出す仕事	本の出版・編集の仕事はIT社会においても価値ある仕事です。 出版社の仕事を紹介し、その内容を考えます。 今、出版の仕事とは・どんな能力・適性が必要 仕事の面白さ(と苦労)
4	佐藤哲夫(筈77回生) 商社食品事業リーダー	商社の仕事 その魅力と意外な仕事	商社の仕事とは(仕事の内容・必要な資質とは) 商社員としての生き方 ・商社に進むなら(専攻/語学力/コミュニケーション力/就職まで) ・感動したこと/大変だったこと/アドバイス
5	山本剛和(筈88回生) 獣医師	獣医師の仕事	獣医師の仕事とは ・仕事の様子の紹介や社会でのさまざまな活躍の場の紹介 ・キャリアパス ・経験したこと、苦労したこと&やりがい ・希望者へのアドバイス
6	飯塚均(筈77回生) 鍼灸指圧整体治療家	治療家の仕事 (鍼灸指圧整体)	誰にでも道は開けている。 関係資格を活かすには ~エステティシャン、スポーツトレーナー 仕事の楽しさ・つらさ・女性の志望者増(美容エステティシャン)
7	鈴木克洋(筈88回生) 航空会社 カスタマーサービス	航空会社の仕事	航空ビジネスの特徴 ・グローバルビジネスとしての航空会社 ・大学教育の内容と、航空会社の仕事/周辺(グループ会社) 印象的な出来事 ・仕事の進め方/苦労/やり甲斐 航空会社を目指すには
8	松坂克雄(筈77回生) 広告代理店企画制作 リーダー	クリエイターの仕事	CMなど広告コミュニケーションの仕事とは? 手がけたCMをお見せしながらお話しします。 劣等生がクリエイターになった理由。 具体的な仕事の内容。楽しいところと、大変なところ。 クリエイターの報酬
9	秋元哲夫(筈77回生) 国立がん研究センター 副院長研究開発部長	医師/医学研究者の仕事	医者を目指すまで ・自分が医学部受験に目覚めた瞬間とは 医学の専門分野の特徴 ・放射線医学(がん治療)とは/そのやり甲斐と困難さ 米長永世棋王(将棋)との出会い ・主治医として
10	加藤幸太郎(筈72回生) 製薬会社 研究開発	化学者の仕事	生物系化学者の役割、仕事、活躍の場、 またその一職種としての薬剤師の役割や活躍の場 機能性化合物としての薬剤開発について 仕事を進める上での心構え この職業に付くためにどのようにすれば良いか
11	志賀利一(筈77回生) ヘルスケア 商品研究・開発戦略 リーダー	企業研究者の仕事 機器開発 企画~研究	企業の研究者を目指すまでの道のり ・きっかけ、強い印象を得た出来事 研究開発とはどういう価値があるものなのか、その大変さは何か ・研究開発が企業を支えるメーカーのビジネス メディカルエンジニアリングの開発プロジェクトの雰囲気は ・企業研究者の日々
12	古関恵一(筈77回生) 石油会社戦略企画部長	エネルギーの仕事 戦略企画の仕事	エネルギーの仕事とは/理系の仕事にも文系要素が必要 ・戦略企画の仕事/価値を生み出すことしか考えてない ・心構えとして必要なこと/知るとよいこと ・キャリアパス
13	橋本正己(筈71回生) 監査法人代表	会計士の仕事	会計士の仕事とは 資格を活かすには 仕事のおもしろさ キャリアについて グローバル時代を生きる諸君へ
14	内多勝康(筈82回生) アナウンサー	アナウンサーの仕事	アナウンサーの仕事とは アナウンサーになるには 面白い点、苦労したことなど キャリアパスについて 後輩へのメッセージ

「箠会特別セミナーの講師として」



瑞木工房 一級建築士 泉 美知子 (高校19回生・箠67回生)

この夏、母校、竹早高校で箠会の特別授業の講師を務めました泉と申します。現在は、日本女子大学の同級生3人と武蔵野美術大学卒業の女性1人と共に設計事務所を営んでいます。

今回の授業は、若い方々に「建築」や「ものづくり」の面白さをお伝えし、将来について考えたり職業選びの参考にしたりしてほしいと思い、お引き受けしました。特別授業では、下記のようなこととお話ししました。普段、生徒の前で話をするという機会がないので声も小さく聞きづらかったと思いますが、生徒達は静かに聞いてくれました。また、現在進行中の建物の模型や図面を持っていったところ、興味をもってもらえたようです。

- 1) 建築設計、インテリアデザインの仕事について
- 2) 建築士になるまでのキャリアパス
- 3) 資質
- 4) 建築士、デザイナーという職業の醍醐味と苦勞
- 5) 自身のキャリアを振り返る
- 6) 外へ出て行こう!! 街を見に行く、
建物を見に行く、いろいろ体験してみよう!



筆者設計の幼稚園

パリのホンピド-センターや関西国際空港旅客ターミナルを設計したレンゾ・ピアノは、建築について次のような言葉を残しています。「建築は建築だけでは存在しえず、

建築の背後にあるもの、或いは氷山をささえるべく海面下に潜む部分が建築たらしめているのです。それがなければ単なる学問に過ぎずこれは全くくだらないものになってしまいます。内容があつて初めて生きてくるのです。そしてそれは人生そのもの、そして我々が培ってきた好奇心によってうみだされているものではないでしょうか。」

レンゾ・ピアノが言うように、建築は奥深く難しい。満足のできるものをつくるのは至難のわざです。また、仕事をするということは、楽しいことや面白いことばかりではありません。しかし、自分なりに仕事に喜びをみつけられれば続けられると思いますし、長く続けていると思いがけない成果を得られることもあります。私自身、今まで仕事を続けてこられて良かったと思っています。この特別講義は、「高校生に将来について考えるきっかけを与える」という意味で非常に有意義なものです。しかし、残念なことに今年の講師陣の内、女性は私1人でした。女性は結婚、出産、育児、介護などの度に選択を強いられ、仕事を続けたいという意志があつたとしても、その実現は容易ではありません。私の場合は、資格が仕事を続けていくための大きな手助けとなりました。今回の講義では、女性のキャリアにおける資格の有用性についてもお伝えできたのではないかと考えております。

女性の社会進出が盛んに叫ばれる中、女性のキャリアの在り方や選択肢は今後よりいっそう多様化していくことでしょう。また、生涯を通じて働きたいと願う女性も増えるのではないのでしょうか。未だ多くの可能性と選択肢を持つ高校生たちと、具体性と多様性に富んだキャリア像や人生観、実体験、アドヴァイスなどを少しでも多く共有していただくことで、学び舎を共にした先輩方から後輩の将来へあたたかなエールを贈っていただきたいと願っております。我こそは、とおっしゃる方は、是非お気軽にお問合せください。(問い合わせ・応募方法:箠会までメール、電話あるいはインターネットで箠会WEBからご連絡をお願いします。)

「篁会セミナーで話す、聞く、考える」



編集者 前田 文志 (高校30回生・篁78回生)

社会科の教育実習生として授業をしてから、30年ぶりに母校を再訪しました。私は教職には就かず出版社に就職したので、現役の高校生と教室で対面するという経験はとても新鮮でした。

キャリア学習としてセミナーでは、出版社の仕事についてお話ししました。主な内容は、ある出版社の歴史、出版社の組織と本がとどくまで、出版社の仕事の面白さと苦労などです。岩波書店の創業者岩波茂雄が、夏目漱石の『こころ』を出版したのが1914年9月、昨年で100年になりました。竹早高校のある文京区には漱石の作品の舞台となった場所が多くあります。高校時代に学校帰りに立ち寄った小石川図書館の開架式の書庫は、私が読書の楽しみを覚えた隠れ家のような存在でした。

出版の実務については、本を企画するところから様々な過程を経て、本が読者にとどくまでの流れを説明しました。ドラマで見る編集者とは違って、本を作る仕事は地味な作業の連続です。また、私の仕事の失敗談やどうやって乗り越えたのかという実話には、生徒が興味を示してくれました。現代の若者は目立ちたがらない、失敗しないで無難にという傾向があると言われます。しかし、若いときの失敗こそ人生を生き抜く力になるものです。若者が失敗から学ぶということは、大人の側に寛容さが

あつてのことだとも気づかされました。

生徒から編集者になるにはどんな能力が必要ですかという質問が来ます。私は、一言で言えばコミュニケーション力と答えます。本を読むこと、文章を書くこと、人の話を聞くこと、人に話をする。いずれも社会人として仕事をするために基本的なスキルだと思います。そしてコミュニケーション力は、考える力につながって行きます。学生時代の読書は、コミュニケーション力を育てるものです。

セミナーの最後に、私が高校生に薦める3冊の本を紹介することにしています。私のセミナーを聴いてくださる皆さんは、図書委員や本好きな生徒が多いようです。竹早高校でも昨年からビブリオバトル(知的書評合戦)が始まって、図書委員の生徒や司書の先生方を中心に学校内で読書活動が盛り上がってきているとのこと。ビブリオバトルとは、みんなで集まって5分で本を紹介。そして、読みたくなった本に投票してチャンプ本を決定する、スポーツのような書評会です。

様々な分野で活躍する先輩方のお話を聞くことができる篁会セミナーが、竹早高校の生徒にとって、知的な刺激に満ちた貴重な機会になればと思います。

如何でしたでしょうか。では、インタビューに戻ります。

セミナーを進化させていくことへの熱い想いはどこから来ているのでしょうか？

しっかりやりたいという想いが常にもちろんありますが、これは強いニーズにも根ざした、理由があることです。

最初の頃(2008年頃)に直面した、セミナーを持続的に成立させる条件に深い関係があります。日々、高校生に授業をなさっている学校の先生は教育のプロであり、生徒に接してその様子を熟知されておられるわけです。われわれの作業は経験値は有りますが、生徒の年齢の考え方や感じ方を深く理解しているとは言えず、話したいことをうまく伝えられていないところがどうしてもあります。しかしそれでも

テクニックの面をもなおざりに

してはいけないと考えています。「ようこそ先輩」

的なアプローチはイメージとしてはありますが、しかし、

教育のプロから「伝える技術」という一点で、やる価値

があるのだろうか?とクエスチョンマークをつけられれば

実施はおぼつきません。だからと言って生徒に迎合して、

受けの良い話をするだけにはしたくないということがあり、そ

こを聞かせられるテクニックをもち、状況を整備して、進化さ

せること、つまりセミナーを成立させる、工夫をしています。

今、実施しているように14講座を並べて一挙にやるのは、

生徒の多様性を見極めて出てきた数です。「もったいないく

らい」の贅沢さで“魅せる”ということもありますが、これくら

いの括り方で、多様性を捕らえるのが好ましいと考えます。

〇 篁会セミナーの『話し手』の方は、お互いに交流され、セミナーに関する様々な情報・ノウハウもシェアされ、研究熱心だと聴きますが、その様子などはいかがでしょう?

〇 反省会というほど大げさではないですが、フォーアップの懇談会や次年度に向けてモチベーションを高める会合も毎年数回は開かれていますので、篁会の委員会の中でも熱心で活発な委員会だと自負しています。『話し手』の皆さんは基本、熱心です。

特に初めて話す方は、いかに仕事で話しなれている方でも、高校生相手では勝手が違い、違和感を持つこともあります。また、時にはそれほど感情を表情に表さない当世気質にショックを受けられることがあるようです。生徒は静かに聴いてくれることがほとんどですが、伝わっているのか、面白いと思っているところや、重要だと思うことを話し手が伝え切れているか、不安に思われるようです。しかし、結構真剣に聞いてもらっていることは、セミナー後のアンケートでも良くわかります。…『話し手』のみなさんも年齢を問わずわきあいあい『話し手』の経験談を聞いたりして、経験値を上げたり、心の準備をして臨んだりという工夫されているようです。セミナー当日の茶話会は、セミナー直後にホットなところで反省をすることができる楽しみな場でもあります。上下関係あまり意識せず、意見交換する姿は竹早の伝統を感じます。

このことにも関係しますが、本年度は、父母と教師の会から、「内容が高度に過ぎる気がいたしました」とのご意

見もいただき、「わかりやすいことは大事ですね」でも「わかりやすいだけのセミナーが、究極なのでしょうか?」などという真摯な議論も『話し手』の中に深まって参りました。

確かに、卒業生の竹早時代を振り返ると、印象に残る先生とは、とても厳しい先生を懐かしいとする竹早OB/OGも多いので、「黙って座れば、聞けばわかる」授業が無条件で良いのかは、議論のあったところでした。たとえば、小石川図書館に籠もって徹底的に自習した方、理系なのに数Ⅲを先取りで独学した方など、自分なりの工夫をした方々は枚挙に暇はなく、特別な例でないのかもしれませんが。もちろん、すべての先生が鬼教師では困りますし、生徒の立場でそれは耐えられませんが、幸いに実際のところは様々なタイプの先生がおられます。


本セミナーも実は、学びを見つめる中で、「仕事の種類」というよりも、『話し手』のキャラが大事との説明をガイダンスの中ではしております。実際、社会に出たところでは、仕事の内容や種類よりも、周りの人に認められるような様々なキャラを、卒業生ひとりひとりが構築して臨まれている、ということからすれば、様々なキャラを察してセミナーを聴くということは、意味のあることなのでしょう。そのなかに、難しい話をする『話し手』も、多様な先生の一つとしてあると考えていただければよいのではないのでしょうか。貴重なポートフォリオの一つであるとも言えます。

〇 特別セミナーは、総合学習の一環としたことで定着したとのことですが、基本的な考え方は、総合学習の考え方と良く合わせて企画されているのでしょうか?

〇 建前だけではなく、本質として合わせているつもりですし、その点には極めて真摯に取り組んでいます。




実施の可否について篁会・学校で大きな議論があった頃は、1996年以降2012年頃までの、文部科学省の中教審報告についてはすべて読み込んでいます。学校に提案する段階では具体的に「生きる力」をつけることが求められていますが、学校の先生は学校にすぐ奉職された方も多いため、社会に出て活躍している様々なタイプの先輩が生徒ひとりひとりにあったメッセージを送ることは、「生きる力」をまず、ヒントと思考があり、それが大きな価値であると考えています。全体として見たときに、筋が良い企画になっているのかどうかはチェックのポイントになっています。


 セミナーの『話し手』に、その取組みの基本的な考え方というコンセプトは、どのように伝えていますか？



 そういう部分は前面には出しておらず、懇親会や事前の説明会などで実質的に共有しています。

あまり難しい教育論、教育哲学的なところは、議論はしていません。むしろ『話し手』が気持ちよく、母校で話をしつつ、それが、とても在校生に資するものであり、かつ総合学習に合致しているという位で進めています。ひとつ注意しているのは、学校の校長先生はじめ、同窓会のこの活動が、宣伝や広報に使える意義ある活動で、実質、奉職する学校が教員の方々の誇りと改めて感じられるとすれば、これはとても良いということです。

 どういうことでしょうか？

 結果としては、生徒の方へのメッセージであるとともに先生へのメッセージでもあります。つまりこのような伝統ある竹早高校という母校の後輩の教育をどうぞよろしく願います、というのが、『話し手』の皆さんに共通する深い想いということだということです。それが全体として、竹早の教育を微力ながら後押ししているとの考えです。


 重い話題から離れ外形的な話で聞きたいのですが、『話し手』の卒業年次を見ると、43歳～65歳の現役講師が多いようですが、もっと20歳代とか若い世代にすることは考えていますか？

 若返りは計っています。
 同時に現役で仕事にとりくまれている

『話し手』の多様さやキャラにこだわった布陣です。

『話し手』の大部分を20～30代の方々にすることはあまり考えていませんし、そうした方がよいとの声が生徒や父兄から具体的にあるわけではありません。むしろ『話し手』の層の中で、若い人を出した方がよいのでは、という声がありますが、いろいろと議論し考えて事務局では、このくらいの年代の層の方をお願いしています。その理由は、社会の仕組みや様子がわかり、キャリアパスをしっかりと語れるようになるには、やはりそれなりに経験が必要で時間もかかります。職種や状況にもよりますが、一般的な話ですが、20～30歳代では、その業界の全貌や、組織の姿と自分の姿を詳細に見極めて、身を処してはいないので、人に「～の仕事」として集約して自分の言葉でお話するのは難しいかと思えます。その点45歳を超えてくると、様々な困難も克服されて、活躍してこれるので大事なこともわかり見通しもききます。また、精神的に余裕があるため、良い点ばかりでなく悪い点もふくめてうまく表現できています。7年間のセミナーの蓄積の中で経験的に確かめられていることです。『話し手』の皆さんのキャリアや生き方が、いわゆる業者によるキャリア説明会などとは一線を画す底光りのする授業の土台となっています。(篁会特別セミナーの支持率は93～96%で一般的な業者利用の場合の70%程度とは違っています)

 最後に会員の方へセミナー関係のメッセージを！

 セミナーの準備と一緒に汗をかいてくださる卒業生を募集しています。大学生・大学院生の方、専門学校の方も歓迎です。卒業生の仕事の様々なノウハウも身につけられ、普段は話せない人と知り合う得がたい機会になることでしょう。2015年4月～7月に数回の会合とメールでのやりとりがあります。ExcelやWordが使える方が好ましいのですが、5名ほど募集させていただきます。

ありがとうございました。お忙しい『話し手』や事務局のみなさん、体を壊さないようになさってください。

* 過去の実施内容及び毎年のチャレンジについては、会報のバックナンバーに報告しております。紙面や会のウェブサイトなどでご参照ください。

竹早山荘の
思い出

「竹早山荘」という名前に 別れを告げ・・・



1960年に設立された〈財団法人 竹早会〉が、法律改編に伴い2013年、〈一般財団法人 フォレストアークス清里〉となり、〈竹早山荘〉という名も〈清里自然の森山荘〉と変更になりました。27年間竹早会の理事長を務めていらした岩田隆子さん（高校11回生・箕59回生）に竹早山荘への思い出をお聞きました。



竹早山荘とは

竹早山荘を学校の施設として利用した世代が現在の五十代と六十代だけで、竹早高校の施設であったことを知っている人も今では同窓生の一部になってしまっています。まず山荘の生い立ち、山荘と岩田さんの関わりなどを教えていただけますか？

1960年、上条秀介氏（在校生の郁子昭子姉妹の父上）から第二高女報国団に小平農園として寄付された土地の売却金と、PTAの寄付（10年の学校債を発行）などを財源に財団法人竹早会が設立され、竹早高校の八ヶ岳寮として建設された山荘は、1961年からHR合宿として、クラスごとに利用されてきましたが、1981年の職員会議で翌年からのHR合宿の廃止が決定になりました。財団の解散なども検討されましたが、原状復帰費用のめどが

立たず、継続運営を余儀なくされました。当時私の父が財団の理事長で、施設の整備などをして維持に努力しましたが1985年に急死しました。それまでは財団の役員が多くは箕会の役員でしたが、後をお引き受け頂けず、設立に尽力くださった小野先生のアドバイスで、同期生たちがサポートして下さることになり、急遽体制が整うまでのお預かりのつもりで私が引き継ぎ、思いがけず長期間携わることになりました。



その後2001年に施設の名称も「八ヶ岳寮」から「竹早山荘」に変わったわけですね。

学校のHR合宿などの利用がなくなって定収入が確保できないので、公共性を加えて広く利用して頂くようにしました。卒業生の同期会、クラス会、研修会などのほか、大学高校のサークルや部活動での利用も増えましたが、運営は楽ではありませんでした。

岩田さんにとっての竹早山荘とは？

それまでまったく無関係に近かった私が、理事長であった父の急死でいろいろな困難に直面し、同期生たちの助けを得てなんとかやってきましたが、この30年間は私にとって研鑽の時間であり、山荘は修行の場であったと同時に、素敵なたくさんの同窓生との出会いの場でした。

山荘の今後についてお話しくださいますか？

この山荘は建築家・吉村順三氏の設計で、建築物としても素晴らしいものです。ロングライフデザイン活動家のナガオカケンメイ氏が「後世に残したい建物」としてあげた中に、山梨県では、清泉寮と萌木の村に加えて竹早山荘が入っているのです。ただ、建物そのものの老朽化が進んでいるので、新しい宿泊施設のように参りません。ホールにあるピアノは戦前立教大学のチャペルにあったもので、空襲のときに避難して難を逃れた1909年にシカゴのピアノ工房で作られたものだそうです。分解し、調律し、今でも山荘でのコンサートで使われています。財団を解散、建物を撤去し原状復帰することも検討されましたが、存続することを選択いたしました。新体制の一般財団法人の目的は自然体験推進事業です。若い世代にバトンタッチをして、今後とも山荘の森・草原・池等の変化に富んだ豊かな自然と安全な環境を生かした自然と触れ合う体験活動を実施して、同窓生をはじめ広く皆様にこの施設を活用していただきたいと考えています。

この山荘は建築家・吉村順三氏の設計で、建築物としても素晴らしいものです。ロングライフデザイン活動家のナガオカケンメイ氏が「後世に残したい建物」としてあげた中に、山梨県では、清泉寮と萌木の村に加えて竹早山荘が入っているのです。



山荘に対する岩田さんの愛情が伝わってくるお話でした。山荘関係の、会報「篁」への掲載は今回が最後となりますが、山荘がいつまでもよい形で続いて広く利用され、「竹早山荘」という名前が会員の記憶に長く残ることを望んでやみません。長年のご苦労と本日のお話ありがとうございました。

(聞き手：高校16回生・篁64回生 佐藤 美紗子)

竹早エコー

樋口 郁代

高校26回生(筮74回生)



「光あれ、力あれ、栄あれ」

今年は無年、なんと還暦を迎える年である。定年退職まであと1年少し、とはいえ年々職務は増加し、子供のため学校のために走り回る毎日。生涯を通じて、「学校」が私の居場所となっている。

東京都の公立中学校教員を経験した後、都の教育行政を務め、その後校長職に就いた。現在は、3年前に創設された、渋谷区初の小中一貫教育校である渋谷本町学園の校長を務めている。本学園には、第1学年から第9学年までの児童・生徒が708名、同じ一つの建物にいる。「新しい学校に魂を入れる」ため、日々邁進してきた3年間である。小学生の屈託のない笑顔あり、高校受験を目前に控えた緊張した表情あり、希望する小学生と中学生が一緒に行く部活動・委員会・朝マラソン・朝清掃ボランティア、常勤の教職員に非常勤の職員を含め80名余のスタッフの努力あり、保護者や地域の方々の協力の姿、行政や関係諸機関の支援等々、学校には、このように多くの大人がかかわり子供たちのよりよい成長を導いている。支える側になって初めて気付く、多くの大人の存在である。

私は、学校群制度の真ただ中、昭和46年4月に都立竹早高等学校に入学した。受験時に竹早高校を初めて訪れた時、中庭と思った空間しがなく、校庭はどこ?と探したことを鮮明に覚え

ている。ちょっぴり自慢のセーラー服の筈結び、初めての地学の授業で地震波を書いてくるように言われて面食らったこと、1年の担任だった土屋先生からは「品位」という言葉を教えていただいた。藤森の菓子パンをほおばった休み時間、お昼の放送づくりに懸命だった放送部の活動と夏合宿、狭い耕地を有効活用した分散体育祭と竹早祭、最も楽しい友達のおしゃべり、授業を聴いていないのにテストができる級友の才能、生徒の希望コースごとに別の場所を経巡った修学旅行、推薦ではなく真正面から受験しなさいと言われて打ち砕かれた現役時の大学受験…、断片的ではあるが枚挙にいとまがない。

自主自律の精神を重んじていることは有難かったが、先生方が遠慮され生徒に任せすぎではないかと、個人的には物足りない面もあった。しかし、振り返ると穏やかで柔らかな毎日であり、校歌に歌われた、眞実一路、清心澆刺、協同親和を学ばせていただいた。

平成26年度の東京都公立中学校は618校あり、現在、校長会会長をさせていただいている。そのうち同期生は3名、何とも力強く頼りになる友である。高等学校等への進学率も98%となった今、各中学校では、キャリア教育や道徳教育、さらには全教育活動を通して、将来の夢や希望、そして自己実現をめざし、人間としての生き方や在り方を真剣に考えさせている。第3学年生徒の面接練習をしていて、志望校が竹早高校であると聞くと、心の中にかつての思いが蘇る。目の前の子供たちはもとより、現在そして将来の竹早生に、光あれ、力あれ、栄あれと。

利根川 しげ子先生

昭和46年4月～昭和58年3月在任
保健体育担当



【会報に寄せて】

私は千葉県に生まれました。高校時代はハイジャンプの選手で、国体に出たこともあり。高校の体育の先生から勧められるままにお茶の水女子大学の体育科に進学したのですが、当時のお茶大の体育科には戸倉先生というダンスで有名な先生がおられ、ダンスにとっても力を入れていました。結局ハイジャンプの方は高校止まりとなってしまいましたが、この経験を竹早高校での体育教育に生かすことができたのでよかったです。

「あなたは高校の先生に向いている」という大学の先生の言葉に背中を押され、都立の教員試験を受けたところ合格することができました。最初の赴任校は上野高校で、4年位いたでしょうか。次が大崎高校で約10年、そして竹早高校へと赴任してきました。竹早高校で10数年、竹早高校が私にとって

教員時代最後の赴任校となりました。一般の退職年齢より早く退職してしまったのは、実は高校からの帰り道、茗荷谷に向かう途中交通事故にあっってしまったからです。身体の調子が悪くなったら体育の教師は続けられないと思い、50歳そこそこで退職してしまいました。

竹早高校は本当にいい学校で、生徒にも恵まれました。みんな素直で、私が教えているというより生徒が先生を助けてくれているように感じるほどでした。想像力が豊かで、頭がよく、思ったことをすぐ体で表現することができる生徒たちだったので、ただダンスを教えるのではなく、よく自分たちで創作したダンスを演じさせました。みなさんは覚えているでしょうか。

竹早高校という高校で自分の教員人生を閉じることができたことを、私は本当に幸せなことだったと思っています。

今少しずつ腰が痛かったりすることもあるのですが、これからも元気に過ごしていけるようにしたいと思います。

(口述筆記：高校25回生・塾73回生 花澤聖子)

斉藤 瑞子先生

昭和46年4月～昭和61年3月在任
数学担当



【昔話】

私が竹早高校に赴任したのは昭和46年の4月でした。

行ってすぐ2年生の担任。授業中は静かでみんなよく聞いていて優秀・・・しかし、前任校とは何か職員室内も教室内も雰囲気も空気も違うんです。

何かみんな下をむいていて。先生も生徒も一生懸命勉強していて、よけいな事はしゃべらない、何故かを話したがない。

これは大変なところへきてしまったと悩みました。

私はもともとあんまり細かい事には気にせず(気が回らない)わいわい楽しいのが大好き人間。でも、そんなお堅い生徒さんたちが本領を發揮したのは、夏休みの八ヶ岳合宿。驚きました。私が新人で何も知らないの、飯盒炊飯の方法から近くの牧場から仕入れた牛乳が濃いので少し薄めた方がよいとか、彼らが先生、私は生徒、本当にびっくり、楽しい経験でしたし、やっとみんなになじめた気がしました。

時代のせい、世の中が変わるのも、生徒さんたちの気質が変わるのもものすごく速くて、こちらがついて行くのも大変。

でも、いつのまにか竹早も普通の平和でみんな優秀でクラブと勉強をよく両立させていて、楽しい毎日を過ごさせてもらい、最後の教員生活が竹早であったことは本当によかったと感謝しています。

竹早エコー

山崎 峻一

高校52回生(筥100回生)

「先輩が後輩の面倒を見る」良き伝統

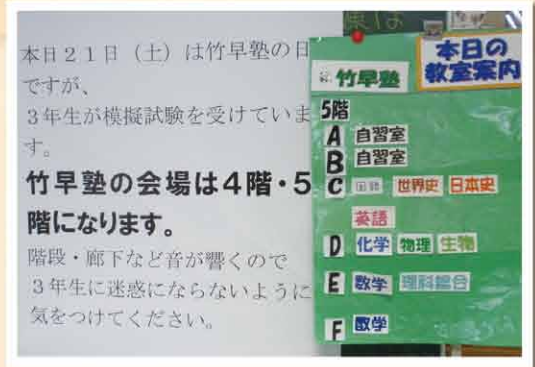
筥会の若手が多く活躍する竹早塾について、活動に長く関わる私から紹介させていただきたいと思う。

竹早塾とは、土曜日に竹早高校で開催される自習教室のことである。竹早高校を卒業した現役の大学生が中心となって年に10回程度、定期考査の1、2週間前の土曜日に開催している。生徒は特に予約などは必要なく、開催時間内に自分の勉強したい問題集や教材を持って学校に行くだけで参加できる。一人で静かに自習することも、解けない問題や聞きたいことがあれば、大学生が待機している教室で教えてもらうこともできる。教室によっては友達同士で教えあいながら勉強することもできる。



この活動は2002年、完全学校週5日制の実施をきっかけにして始まった。PTAが中心となり、土曜日の有効活用について議論する土曜活用委員会が発足。他校の活動なども参考にしながら、卒業生をサポートティーチャー(ST)として登録し、生徒の自習をサポートする「土曜自習室」(2004年、竹早塾に改名)の実施が決定され、2002年6月15日に第1回が開催された。

当時私は大学3年生で、卒業後も仲良くしていた同級生何人かと共にST1期生として本活動の当初から参加した。誰もが手探りの状態の中、参加者へのアン



ケートの実施や自習室終了後に毎回行う反省会での議論を通じて皆でアイデアを出し合い、一つ一つ改善を重ねていった。各自の負担が増えるのも厭わず、事前の教材解説プリント作りや講義形式での勉強会の開催など、ST全員が在校生の役に立つ竹早塾を目指し、熱意を持って取り組んだ。熱心な活動の結果、アンケートの回答ではまた利用したいという声が8割を超え、参加者も多いときには1日に180人以上となることもあった。大学の進路相談やオープンキャンパスについての情報提供など、STの特色を生かした活動も展開し、竹早塾の存在は確実に竹早高校に浸透していった。今年度活動しているSTは17名で、全9回中8回が終了した現在、参加した生徒はのべ431人と、今年もたくさんの生徒に利用されている。

10年以上にわたって活動を続けられた背景に、PTAの方による運営サポート、先生方からの情報提供などの協力も欠かせなかった。初めは活動が理解されず、保護者の方からの「先生に補習をしてもらいたい」という声や、授業の範囲や使用している教材の情報収集が十分にできないことに苦労することもあった。一時は予算が確保できず、活動の縮小や廃止の議論もあった。それが今では学校PRの一つとして学校説





明会や学校紹介パンフにも取り上げられ、受験生が竹早塾の事を竹早の魅力の一つと考えてくれていることは、本活動の初期から関わってきた一人として本当にうれしく、これまで支えてくれた方々への感謝の念に耐えない。今回、活動実施の経緯についてお話を伺った先生から、一つのエピソードを聞いた。別の高校に異動された先生がその高校の倉庫を整理していたら、

文化祭でPR用に作成し、配布した竹早塾のうちわが出てきたことがあったそうだ。他校にまでその存在が伝わっていたことを示す、うれしいエピソードである。

この活動は「先輩が後輩の面倒を見る」という竹早の良き伝統を受け継いでいるが、それは在校生のみならず卒業生も教える側として学びあい、成長できるという側面も持っている。大学卒業後、教職の道に進み、直接STの経験を生かせる職業に就いた方もいるが、特定の職業に限らず良い社会訓練の場になっていると感じている。PTAや先生方と協議しつつ1つのプロジェクトを皆で作りに上げるという経験は、研究職である自分にとっても貴重な勉強の機会であったと感じている。卒業生にも在校生にも価値のあるこの活動は、単なる試験勉強ではない幅広い教育の場として、今後も継続して行ってほしいと思う。

横田 千晶

高校66回生(筥114回生)

大学の担当教授の経歴にあった『竹早高校卒』の驚きと嬉しさ

私は今、中央大学都市環境学科で土木工学を学んでいます。1年前期では測量学という授業がありました。初めて大学で専門的なことが学べると思い、楽しみにしていました。しかし始めてみると、内容が難しいので理解できずとても辛かったです。理解できないまま毎週のように宿題が出され、私は講義のプリントを何度も見返しながらなんとか解いて提出しました。これは難しい上に、計算量も多く大変でした。前期の授業で圧倒的に宿題が多い授業だったので、この教授はいったいどんな人なのかと思いネットで調べてみました。すると教授の経歴に「姫野賢治 竹早高校卒」と書いてあったのです。その時私は驚き、何度か調べ直したのを覚えています。

それ以降、私は先輩から教えてもらっているという嬉しさからか授業が好きになりました。宿題も量をこなすと徐々に慣れてきて、理解できるようになりました。夏休みには授業の延長で実

測量実習にて
(左端が筆者)



習がありました。班ごとに測量し最終日までに地形図を完成させなければいけません。ここで大変だったのは、正確に測るために三脚を水平にたてることでした。特に斜面に三脚をたてる時はやっかいで3人がかりでないとたてられませんでした。他にも計算ミスや観測値の誤りなどがあり、予定通りには進みませんでした。そこで私たちの班は話し合い、朝5時から作業を開始し、夜に計算をし直して終わらすことができました。提出する時にはよく書けていると褒めてもらい、皆で頑張った良かったと思いました。

大学ではクラスでの行事がなく寂しく思っていたので、実習で班員と協力して一緒に作業するのは楽しかったです。私はすぐに理解ができなくても諦めないこと、協力する大切さを胸にこれからの大学生活を過ごしていこうと思います。

新世代は「いま」

竹早エコー

女子 バレーボール部



でしたが、3年生は試合ができる喜びを味わうことができました。

現在では、67期の3年生が引退し、バレーボール初心者が半数以上の8名で新チームを作り、毎週4～5回活動しています。水・金・土・日が

現在、1年生6名、2年生2名の計8名で活動しています。女子バレーボール部は高校の前身である、東京府立第二高等女学校時代に創部された歴史と伝統を誇る部であります。OB・OG会もしっかり組織され、年に1度は様々な年代の方々が本校に集まり、バレーボール大会を通して現役選手の指導し交流を深めています。

女子バレーボール部は、2年前、66期生が卒業し部員が5名となり、1年間公式戦に出場できない危機的状況に追い込まれました。特に67期の部員にとっては、くやしい1年間となりました。しかし誰1人として部を去る者はなく、日々公式戦に参加できる日を願い、黙々とネットを張り準備し、真面目に部活に取り組みました。その甲斐あって、今年度は1年生が6名入部し、部員が11名となり67期生は3年生として、公式戦に出場することができました。試合は全敗

体育館でボールを用いた練習、月がフィジカルトレーニングです。夏には、合宿を復活させ7月に山梨県都留市で3泊4日の男子バレーボール部との合同合宿を行い、チームの絆を深めることができました。しかし11月から、体育館の天井の改修工事が始まり、練習は外部の体育館や他校に遠征して行っており、また女子バレーボール部の受難な時代に入っていました。そのような中、11月に行われた新人リーグ戦では、5試合戦って1度も勝つことはできなかったものの強豪チームを追い詰めたり、相手チームから初の1セットをもぎ取ったりと個人としてもチームとしても成長がみられました。

現在、8名はチームが組め、バレーボールができることに感謝し、来春の3年生の引退試合となる公式戦で勝利することを合言葉に、試合で自分たちの100パーセントの力を出せるように努力しております。(2014年12月記)

剣道部



私たち竹早高校剣道部は、昨年度に廃部状態にあったのを復活させ、現在活動しています。部室には栄光ある先輩方の写真が置かれているので、廃部される前は活発に活動していたことがわかります。そんな先輩方に続いて新たな剣道部の歴史を作ることができるように日々稽古に励んでいます。

現在の部員数は1年生5人、2年生3人の計8名です。活動日は月・水・金曜日の週3日で、月・水には剣道場での稽古、金には木刀による形の練習や筋トレ等を行っています。さらに、学校の長期休業時にも日を決めて活動しています。

指導をしてくれる先生がいないので、経験者が中心となってメニューを考え、お互いにアドバイしながら高め合えるよう

にしています。また高体連に所属して、そこで開催される講習会に積極的に参加するなどして頑張っています。そして、その頑張った成果を出せるように、大会や昇級・昇段審査に参加しています。最近では一年生のうちの3人が一級に合格しました。これからある大会や昇段審査に向けて、また頑張りたいと思っています。

まだまだ発展途中にあるので上手いかわないことがあったり、悩むこともあったりしますが、部員皆で協力し、助け合ってより良い部にしていきたいです。

(2014年12月記・斎藤 香那子)



篁会教育基金・奨学生認証式

篁会教育基金による奨学生への奨学金授与は、2012年度から行われております。昨今の厳しい経済状況の中、少しでも竹早高校の在校生の勉学の助けになればと開設された制度です。2014年度は、6月上旬に募集を行い、7月に竹早高校で奨学生の候補者を選定していただきました。篁会理事でもある竹早高校の青山俊也先生には、募集から選定まで大変お世話になりました。ありがとうございます。

2014年度は、各方面からのご要望もあり、奨学生の人数を2人から6人に増加しました。その分、一人当たりの奨学金の額は少なくなりましたが、より多くの生徒さんに奨学金を活用していただき、篁会とのつながりを深めていただきたいという趣旨から、6人に授与することになりました。本年度、奨学金を授与されたのは、3年A組大友啓介さん、C組長澤明さん、D組松村美香さん、E組鴫田瑠璃さん、E組渡邊慧さん、F組川田奈々さんです。奨学金を有意義に活用していただき、それぞれの目指す道に向かって前進していただければ嬉しい限りです。

2014年度の特別セミナー開催に合わせ、7月15日に古関恵一篁会会長から一人一人に認定証をお渡し、記念撮影をいたしました。皆さん、竹早高校を卒業しても母校とともに学んだ仲間同士、ぜひ交流を続けていただきたいと思います。そして、いつか特別セミナーに講師として登壇したり、篁会の活動に参加することによって、将来は後輩たちを応援する立場になってくださることを期待しています。がんばってください。

(篁会教育基金事務局)



(写真後列左より) 渡邊さん、鴫田さん、長澤さん、大友さん、川田さん、松村さん

平成26年度

「箎会総会・懇親会」報告



平成26年度の箎会総会・懇親会は6月15日(日)に東京・芝公園の東京プリンスホテル『サンフラワーホール』にて開催されました。当日は梅雨の時期としては珍しく、すばらしい晴天に恵まれました。当番幹事の高校24回生(箎72回生)が中心となり受付、出席者の誘導に当たり、午前11時の開催に至りました。出席者は来賓、関係者を含め、93名でした。

■ 総会

箎69回生で箎会副会長の吉岡新氏が議長に選出され、吉岡議長の議事進行により役員を紹介、新任理事及び退任理事の承認、新任監査の承認、平成25年度事業報告、決算報告、監査報告、平成26年度の事業計画案、予算案の報告等があり、承認されました。今回は箎会規約の改正について前例のない程白熱の論議が行なわれて承認されたことは記憶に留まるところとなりました。また今回、これまで多大な功績を残された松本紀子箎会会長の御退任と古関恵一箎会新会長の御就任が滞りなく行なわれて箎会の伝統の継承が恙無く目の前で確認されましたことも今回の総会の特徴でありました。

■ 懇親会

今回新たに就任された古関恵一会長より就任の御挨拶があり、竹早高等学校の高田純一校長からは祝辞が述べられました。そして札幌より御参加の東京府立第二高等女学校卒業生である鳥海美代子様の発声で乾杯となりました。お料理に舌鼓を打った後に、松本紀子前会長より箎会会長を引き受けたのは自分を育ててくれた先生や学校に恩返しをしたかったからですという趣旨の会長就任の経緯に纏わるお言葉がありました。また来賓の長谷部英吾先生と土屋正孝先生いずれからも、教鞭を取った高校の中で竹早高校ほど思い出に残る、そして現在に至るまで濃やかな心の交流を続けている高校はないとお言葉を賜りました。次年度当番幹事を務める箎73回生の花澤聖子様より来年の総会の告知があり、最後に府立第二高等女学校と都立竹早高等学校の校歌斉唱が行なわれ、時間どおり楽しい会もお開きとなりました。



■ 講演会

司会は箎72回生加藤幸太郎が担当し、箎72回生で名古屋大学特任教授金田義行講師による『巨大地震にどう備えるか』と題した講演が行われました。金田講師はこれまで一貫して地球物理学、特に地震関連領域で研究活動をされて来た成果を数多くのコンピューターシミュレーションと共に示し、此の分野の素人も理解できる話の組み立てと語り口で、何度も聞いてみたい程すばらしい内容の講演をなされました。

「松本会長、長い間ありがとうございました。」



加藤幸太郎 高校24回生(箎72回生)

お休み処 たかむら



「なっちゃんください!」の注文の声が引きもきらないのです。小さな子供も、竹早祭用の揃いのTシャツの女子生徒たちも。他にポカリスエット、お〜いお茶、爽健美茶を用意しましたが、なっちゃんの1.5ℓのペットボトルだけが蒸発するように消えてゆくのは例年通りでした。鼻の下にうぶ毛のヒゲが目立つ男子までも少しはにかんで「なっちゃんください」と言うのを聞くと、最後にオレンジジュースをいつ飲んだか思い出せない中年(初老)男にとってはいささか不思議な感慨を覚えました。大人には淹れたてのコーヒーが一番人気です。篁会が寄贈を受けた2台のコーヒーメーカーがフル稼働してもドリップが追いつかず、「少しお待ち下さい」と頭を下げることもしばしばでした。

名前は「お休み処」ですが、午前中、竹早祭が始まると次から次にお客さんがやって来ます。「お休み」ではなく、ここを目当てにまず来て下さっているのでは、と感じます。何しろ場所が良いのです。校舎中央付近の階段を2階に上ったすぐ目の前の教室。嫌でも目につく場所を毎年確保して下さる高校側の配慮に感謝します。

無料の休憩の場ですが、一部お金関連の項目があります。

1つは、第二高女・高校女子・高校女子男子の、3つの校章がデザインされたUSBメモリー、1500円(これはチラシのみで、現金の取り扱いはありません。購入希望者は郵便振替での申し込みになります)。

もう1つは、やはり3つの校章が入ったTシャツ、1500円。そして自由意志による募金。去年は竹早祭の2日間で約2万7000円の『篤志』を頂きました。

これら集まったお金は篁会が設けた「教育基金」に繰り入れられます。この基金から竹早生に奨学金をお贈りしています。去年で3年目になります。1年目と2年目は2人に12万円ずつ贈り、去年は6人に4万円ずつ贈りました。もちろん



篁情報館



返済不要、後輩をローンで苦しめるようなことは致しません。

さて、急ごしらえのお休み処でも

「もてなす」側の私たちは思いのほか大変です。コーヒーを入れ、ソフトドリンクを紙コップについて渡し、テーブルを拭いてコーヒーフレッシュやお菓子(煎餅やビスケット、飴など)を補給し、全体を見渡して手の足りないところを助けるなど雑務全般をこなす。訪れる人が列をなす時もしばしばで、ほれコーヒーのドリップが間に合わない、やれなっちゃんのペットボトルがもう空っぽ、さあテーブルのお菓子がなくなった、テーブルにこぼれた飲み物を拭かなくちゃ、なに座る席がない、すみませんすみません、お相席お願いします、上着お荷物はお膝に…。接客など経験のない身、『きりきり舞い』という言葉が大きさではない時間帯がたびたびありました。スムーズに運営するには ○コーヒー担当 ○ソフトドリンク担当 ○テーブル担当 ○雑務全般担当の4人は最低限必要だと思いました。実際、忙しさに取り紛れてソフトドリンクを担当する人がいなくなってしまう僅かなタイミングに、お客さんが自分でペットボトルからおかわりをついでいたことがありました。これは大変マズいことです。これが当たり前になると野放図な『飲み放題』になってしまい、ペットボトルごと持って行った、というようなことも起こりかねません。『一人でも多く』『公平に』『気持ちよく』お休み処を利用してもらうためには一定の『場のコントロール』が必要です。

そこで卒業生の皆さん!今年、『お休み処』の手伝いにいらっしゃいませんか?若い人でもシニアの方でも。今ドキの高校生にじかに接することもできますし、奨学金の原資集めに協力することにもなって現役竹早生のためにお役に立てます。

今年秋の週末のひと時、ぜひ、『お休み処』で他ではできない体験を!

(高校34回生・篁82回生 べつききとし 戸次聡史)

第8回

篁寿会開催報告

篁寿会を篁会の正式行事として初めてから今年で8回になりました。

高女時代に入学の学年(卒業は篁52回高校4回まで)の合同同期会という形で、幹事役を篁会が引き受けるというのがスタートのきっかけです。

さる10月18日(土)に、第1回から同じ学士会館で開かれました。

最年長(最上級生)の篁36回生から最年少(最下級生)の篁52回生までの54名が出席し、一年ぶりの再会にお話が弾んだようです。

今回の特別プログラムとして、長年声楽の指導をしていらっしゃる篁51回生の河井弘子さんが、愛弟子の岩井理花さんの歌声をプレゼントしてくださいました。オペラ歌手の岩井さんが、オペラ「椿姫」から「乾杯の歌」を歌いながら登場し、テーブルの間をまわっていくと、みなさんその声量にびっくり、美声にうっとり、と素晴らしいひとときを過ごしました。

例年通り、ライオン株式会社からのプレゼント、事務局が用意した賞品などの抽選会もお楽しみいただけましたようです。

年々参加者の年齢も当然上がってきますが、事務局の心配もなんのその、みなさんとてもお元気でパワフルで、スタッフの方が元気をいただいているようなありさまです。

また次回もたくさんの方々とお目にかかるのを、事務局一同楽しみにしております。

篁寿会事務局・佐藤美紗子(高校16回生・篁64回生)

— 一次回の篁寿会開催は —

2015年10月10日(土)、会場は学士会館です。

たくさんの方のご出席をお待ちします。

詳しいことは会報同封のピンクの封筒に入っていますのでごらんください。



関西簗会 だより

関西簗会 幹事会



平成26年は季節の変わり目がはっきりした一年でしたが、皆様お変わりないでしょうか？

平素から関西簗会の活動へのご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

平成26年度の関西簗会総会は11月29日(土)にホテルグランヴィア大阪の目前に完成したグランフロント、遠くに北摂の山々を望む部屋で開催されました。

今回は12名と少人数で幹事以外のご出席が4名という寂しさでした。しかしながら高女出身の先輩方の学校生活、青春の思い出を興味深くお聞きし、また、全員の近況をお伺いし、予定の2時間があっという間に過ぎてしまいました。

関西簗会は近年総会の出席者が減少し、また会報は不本意ながら前々号から休刊しております。来年度からの運営方針についても鋭意検討しており、極力長く続けていける様進めたいと思います。

平成27年度の関西簗会総会は平成27年11月29日(日)に同じくホテルグランヴィア大阪で開催の予定です。関西圏の皆さんはもちろん全国各地からの多くの方々の参加をお待ちいたしております。最後に簗会の一層のご発展をお祈りいたします。

湘南簗会 だより

影本 昌則 高校6回生(簗54回生)



平成26年5月13日(火)に総会と懇親会を、例年通り鎌倉市七里ヶ浜の『鎌倉プリンスホテル』で行った。今回は当日の欠席者もあり、参加者が11名(写真撮影時は9名)とやや淋しい会となった。しかし今回は、本部から届いた名簿で、昭和37年卒業(簗62回生)以降で且つ近隣に在住の方々に入会案内をした結果、5名の新規加入者があった。そして、その中のお一人である小山正之君(簗72回生)が出席して下さった。冒頭の松本会長のご挨拶では、平成26年度の総会をもって会長職をご退任されるということで、在任中、創立110周年記念事業で府立第二高

女の『記念碑』が建てられたことが大変印象に残っておられるとのお話であった。続いて河野かづ子様(簗41回生)の乾杯の音頭で懇親会を始めた。

会食の際、松本会長から、NHKの連続テレビドラマ『花子とアン』の登場人物「白蓮さん」が、会長の仲人であられたとのお話から、話題はこの件に集中した。「白蓮さん」は会長の義母様の無二の親友であられたとので、会長が持参された写真を皆で拝見したが、そこには、当時の3大美人の御一人であったとの噂に違わず、大変美しく又気品のある「白蓮さん」の姿が映っていた。食後は、昨年に引き続き田中順子様(簗60回生)から『源氏物語』の話をしていただいた。今回のテーマは「恋のさまざまにみる源氏物語の斬新な表現」で、「夕顔」、「若紫」、「葵」、「賢木」等、それぞれの場面での恋の表現について解説があり、今回も大変興味深い内容のもので一同大満足であった。最後に、新旧校歌を皆で合唱し、中田幹事(簗54回生)の閉会の辞でお開きとした。

なお、『平成27年度の総会・懇親会』は次の通りです。

日時：平成27年5月15日(金)12:00~14:00

場所：鎌倉プリンスホテル

学校の活動報告



箠会の皆様には竹早高校の教育活動のために、常日頃から多くのご支援・ご尽力を賜り、生徒及び教職員一同、深く感謝しております。

平成26年度も箠会特別セミナーに先立ち、土曜セミナーを実施していただきました。講師の方からお話を伺い、参加した生徒は将来へ向け視野を広げることができました。

竹早祭は天気にも恵まれ、前々年度並みの来場者がありました。お休み処「たかむら」では飲み物やお菓子を提供していただき、ありがとうございました。また、3年生徒6名に箠会教育奨学金をいただき、感謝しております。

平成26年度卒業式は、体育館改修工事のため、お茶の

水女子大学の講堂をお借りして実施しました。

大学合格状況は表1のとおりです。

部活動では、陸上競技部の生徒が走り高跳びで関東大会に出場しました。また、ダンスパフォーマンス部も各種大会で好成績をおさめました。

学校説明会等への来校者数は表2、入試の実質倍率は表3のとおりです。

今後とも、良き伝統を踏まえた竹早高校の教育活動をさらに発展させるために、引き続きご尽力いただきたく、お願い申し上げます。

平成26年度 年間行事

- 4月 土曜講習(5～) *1、始業式(7)、入学式(8)、対面式(9)、1・2年課題テスト(9)、2・3年保護者会(12)、健康診断・体力テスト(17)、生徒総会(28)、校外学習(30) *2
- 5月 体育祭(9)、父母と教師の会総会(10)、竹早塾(18～2/28) *3、中間考査(28～6/2)
- 6月 授業公開・保護者会(7)、3年進路オリエンテーション(9)、箠会土曜セミナー(14)、2年進路オリエンテーション(16)
- 7月 期末考査(2～7)、1・2年模擬試験(11)、箠会特別セミナー(15)、終業式(18)、部活動夏季合宿(20～) *4、夏期講習(22～)、学校見学会(25～)
- 8月 部活動夏季合宿(～7) *4、学校見学会(～15) British Hills団体宿泊研修(20～22)、夏期講習(～27)
- 9月 始業式(1)、3年推薦・センター試験説明会(1)、1・2年課題テスト(2)竹の子祭(12、13)、竹早祭(14、15)、1年宿泊を伴う防災訓練(26、27)
- 10月 授業公開・学校説明会(4)、中間考査(21～24)、
- 11月 模擬試験(5)、開校記念日(7)、体験入学・学校説明会(15)、国際理解講演会(17)
- 12月 期末考査(5～10)、2年修学旅行(沖縄15～17)、終業式(25)
- 1月 始業式(8)、1・2年課題テスト(9)、推薦入試(26、27)、1・2年模擬試験(28)
- 2月 合唱コンクール(5)、1・2年保護者のための進路講座(7)、1年学力調査(12、13)、学力検査(24)
- 3月 1・2年進路講演会(2)、学年末考査(6～11)、卒業式(7)、2年模擬試験(13)、2年合格体験講演会(24)、修了式(25)

- *1 土曜講習 予備校講師による大学受験に向けた英語・数学の講習 前期(4～9月)、後期(10月～2月)各10回実施
- *2 校外学習 1年:長瀨 2年:横浜 3年:東京ディズニーランド
- *3 竹早塾 父母と教師の会と卒業生が連携した考査前の生徒の学習支援5/17・24、6/21・28、10/11・18、11/22・29、2/28の全9回実施
- *4 夏季合宿 参加者:14部、269名
陸上競技、サッカー、軟式野球、男子バスケットボール、男子硬式テニス、女子硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、男子バレーボール、女子バレーボール、吹奏楽、美術、天文、箏曲

表1 大学合格状況

国公立大学	国公立大学			私立大学	私立大学		
	H27	H26	H25		H27	H26	H25
北海道			1	青山学院	19	29	24
帯広畜産			1	学習院	13	19	16
弘前	2			慶応義塾	10	3	10
東北	1	1	1	國學院	7	26	9
福島		1		駒沢	17	12	8
筑波	3	1	2	芝浦工業	16	19	9
茨城	1			上智	9	6	14
宇都宮		2		成蹊	4	6	9
埼玉	6	7	7	成城	12	9	11
千葉	8	5	5	専修	12	9	9
お茶の水女子	1			中央	25	17	21
東京医科歯科			1	津田塾	0	3	1
東京外国語	2	3	2	東京家政	13	4	2
東京海洋	2	1	1	東京女子	4	5	2
東京学芸	1	1	3	東京都市	6	9	*
東京藝術	1			東京農業	34	36	7
東京工業	1	2	1	東京理科	15	27	23
東京農工	1	3	2	東洋	86	52	48
横浜	2	1		獨協	*	11	*
信州			1	日本	44	46	31
山梨	1			日本女子	11	8	3
岐阜		1		法政	43	44	47
京都			1	武蔵	23	12	9
神戸			1	明治	59	50	49
香川	1			明治学院	17	38	19
長崎		1		立教	45	53	59
前橋工科		2		早稲田	25	31	41
埼玉県立	1	1		その他	133	75	69
首都大学東京	3	4	4	私立合計	702	659	550
横浜市立			1				
北九州市立	1						
防衛大学校	1						
看護大学校	2						
国公立合計	42	38	34				

数値は現浪のべ合格者数である。
H27はH27.3末の数値である。
H25年卒業生は7クラス(他は6クラス)
*はその他として集計

表2 来校状況

	H26	H25	H24
学校見学会	1,390 (10回)	1,414 (10回)	1,330 (11回)
竹早祭	4,109	1,458	4,129
学校説明会	1,091	1,332	1,090

H25年度竹早祭は台風接近のため1日のみ開催

表3 入試状況(実質倍率)

	H27	H26	H25
帰国	1.21	2.00	1.00
推薦			
男子	3.13	3.52	2.67
女子	5.14	5.81	4.20
一般			
男子	1.47	1.49	1.39
女子	1.70	2.06	1.60
募集(クラス数)	6	6	7

理事会報告

平成26年度の理事会活動は以下の通りです。

●第1回理事会 6月1日 出席理事16名 委任状4名

- 承認事項
 - ・新理事推薦の件 姫野賢治氏
 - ・土曜セミナー、特別セミナーの開催
 - ・会報22号の修学旅行記事、BS番組より使用許諾要請、了解
- 報告事項
 - ・会報発行 表紙デザインなど、内容も充実
 - ・総会、懇親会の進捗状況
 - ・会則、細則の説明
 - ・委員会の担務表(総務・広報・企画)の説明

●第2回理事会 7月26日 出席理事9名 委任状10名

- 承認事項
 - ・竹早祭に「お休み処たかむら」を出店
 - ・会報委員会の設置、委員長決定
 - ・会則、細則の改定案審議
 - ・新理事推薦の件 花澤聖子氏 風間玲子氏
- 報告事項
 - ・奨学金24万円授与(今年度から6名に、各4万円)
 - ・土曜セミナー、特別セミナーの報告
 - ・担務の引き継ぎの「見える化」促進
 - ・若年層への展開(学校の竹早塾との連携)
 - ・篁会活動案の説明(課題、総会参加者増、OBによる講座、会費増収)
 - ・ホームページ管理について
 - ・総会、懇親会の開催報告

●第3回理事会 10月11日 出席理事9名 委任状6名

- 承認事項
 - ・教育基金の総額は24万円。
 - ・副会長推薦の件:薩田須美子氏を承認
 - ・ホームページ委員会の活動活性化について
 - ・竹早山荘について、別法人になった為、今後の会報に掲載無しとなった。
- 報告事項
 - ・会報のエコー欄の充実案の提案
 - ・総会準備委員会より、講演者の候補名が挙がった。
 - ・二つの校歌のCDが作成された。
 - ・都立高校同窓会連絡協議会の集まりについて当面参加なし

●第4回理事会 1月24日 出席理事14名 委任状6名

- 承認事項
 - ・会報を8ページ増やし内容の充実を図る。(増ページは今回限り)
 - ・学年幹事、部活幹事連絡会を充実させ、その事を会報に掲載
 - ・新理事承認の件:戸次聡史氏
 - ・新アドバイザー承認の件:松永茂樹氏
- 報告事項
 - ・総会の詳細(講師、懇親会の企画、遊ナビの利用)
 - ・会計より今年度は2~30万円の減収が見込まれるとの報告

●第5回理事会 3月23日 出席理事14名 委任状6名

- 承認事項
 - ・会報は今後、篁36回生以降の方に送る。同窓既婚の方は連名で送る。
 - ・訃報報告ページ増の為、特集1ページ減とする。
 - ・Web管理委員会より更新体制を確認
 - ・学年幹事・部活幹事連絡会を7月11日に開催
 - ・会計報告と予算案審議。篁会会費増収の方法を検討
- 報告事項
 - ・総会の進捗状況 篁73回生に呼びかけのチラシを会報に同封
 - ・特別セミナーは1年と2年の合計500人を対象とする。
 - ・奨学金は今年から6人に各4万円に給付する。
 - ・会則、規程類の改定および新規制定の再確認

<その他>

- ・4月 8日 竹早高校入学式に参列
- ・6月 14日 土曜セミナー
- ・6月 15日 篁会総会、懇親会 東京プリンスホテル
- ・7月 10日 特別セミナー、奨学生証式
- ・9月 14、15日 竹早祭に「お休み処たかむら」を出店
- ・10月 18日 篁寿会:学士会館にて
- ・1月 24日 新年会を竹早高校、父母と教師の会の合同で実施
- ・3月 7日 竹早高校卒業式に参列:お茶の水女子大学講堂
- ・3月 17日 会計監査実施

篁会 平成26年度収支決算案および途中経過報告

平成26年4月1日より平成27年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金(*1)	20,936,130	総会開催関係費	986,340
入会金:新入会員	1,880,000	贈呈記念品費	550,220
年会費	2,313,000	会報発行費	2,829,600
総会会費	730,000	Webサイト運営保守(*2)	666,144
諸事業収入(篁寿会会費)	472,000	総務費	129,047
受取利息	974	教育援助金	100,000
寄付(竹早祭時のワンコイン募金)	26,971	奨学金	240,000
雑収入(TシャツUSBメモリ売上純益)	105,500	諸事業経費(*3)	1,232,922
		予備費	0
		次年度繰越金(*1)	19,730,302
合計	26,464,575	合計	26,464,575

各繰越金(*1)には下記が含まれています

事業内容	金額
周年事業基金	1,628,994
教育基金 (奨学金分減算、雑収入と寄付金加算)	1,432,157
高女記念碑基金	307,600
基金合計	3,368,751

(*2)には下記が含まれています

事業内容	金額
ドメイン維持費	4,320
年間保守料	648,000
Jimdoサーバ使用料	13,824
諸事業経費合計	666,144

期末の現金預貯金等の残高 金額

現金	112,161
預貯金 ゆうちょ銀行 通常貯金	4,460,148
預貯金 ゆうちょ銀行 定期貯金	7,000,000
預貯金 ゆうちょ銀行 振替口座	7,541,420
預貯金 みずほ銀行 普通貯金	616,573
合計	19,730,302

(*3)には下記が含まれています

事業内容	金額
学年幹事連絡会関連	0
竹早祭出店企画	58,263
篁寿会	670,042
篁会特別セミナー	504,617
諸事業経費合計	1,232,922

篁会 平成27年度収支予算(案)

平成27年4月1日より平成28年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	19,730,302	総会開催関係費	1,300,000
入会金:新入会員	1,800,000	贈呈記念品費	550,000
年会費	2,800,000	会報発行費	2,800,000
総会会費	1,000,000	Webサイト運営保守	800,000
諸事業収入(篁寿会会費)	400,000	総務費	250,000
受取利息	1,000	教育援助金	100,000
寄付	30,000	奨学金	240,000
雑収入	100,000	諸事業経費	1,220,000
		予備費	0
		次年度繰越金	18,601,302
合計	25,861,302	合計	25,861,302

事業内容検討案

事業内容	金額
学年幹事連絡会関係	100,000
竹早祭出店企画	70,000
篁寿会	600,000
篁会特別セミナー	450,000
諸事業経費合計	1,220,000

(単位:円)

●年会費納入のお願い

いつもご協力ありがとうございます。年会費の複数口受け付けがはじまり、おかげさまで予算を上回る増収となりました。これからも同窓生相互の交流、親睦を深めるため、さらに母校及び現役生に貢献するためにも、箏会会計の充実を図りたく、会員の皆様のいっそうのご協力を宜しくお願い申し上げます。

【年会費は複数口受け付けます】
同封の郵便振込用紙をご利用ください。

- ・年会費 1口 1,000円 1口以上
- ・総会参加費 7,000円 (参加の方のみ)

●「箏〇〇回生」について

会報のなかに、(箏〇〇回生)と記載されていますが、これは1901年の第一回卒業生が(箏1回生)=(高女1回生)、1973年卒業の高校25回生は(箏73回生)、2015年の卒業生は(箏115回生)=(高校67回生)というようになります。会員同士の卒業年数の差異がすぐわかり、会報や総会等で用いています。

●箏会総会幹事学年について

箏会総会は毎年6月に都内で開催されます。
 今年は1973年卒(高校25回生、箏73回生)が幹事学年となります。一生に一度の幹事学年ですので、お誘い合わせのうえご出席ください。
 また、来年幹事学年となる1974年卒(高校26回生、箏74回生)の皆様も是非ご出席ください。なつかしい仲間と久し振りに語り合ひましょう。

●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ(総会出欠用)等で「箏会」までお寄せください。
 また、住所等が変わられた方は、「箏会」までお知らせください。
 ご自分で箏会ホームページで変更することもできます。
 〒112-0002 文京区小石川4-2-1
 東京都立竹早高校内「箏会」
 箏会連絡用電話 090-8853-1901 takamurakai@gmail.com
<http://www.takamurakai.com>

箏会役員名簿<平成27年4月現在>

会長	古関 恵一 (箏77回生)	理事	松澤 由利子 (箏70回生)
名誉会長	高田 純一 (竹早高校校長)	理事	中村 光宏 (箏71回生)
顧問	星野 昌子 (箏50回生)	理事	塩見 健 (箏72回生)
顧問	磯貝 恵三 (箏55回生)	理事	加藤 幸太郎 (箏72回生)
副会長	香川 洋子 (箏68回生)	理事	伊坂 道子 (箏72回生)
副会長	吉岡 新 (箏69回生)	理事	風間 玲子 (箏72回生)
副会長	薩田 須美子 (箏72回生)	理事	花澤 聖子 (箏73回生)
理事	古山 浩之助 (箏64回生)	理事	姫野 賢治 (箏74回生)
理事	池上 美知子 (箏68回生)	理事	青山 俊也 (箏77回生)
理事	小田 みどり (箏68回生)	理事	飯塚 均 (箏77回生)
理事	岩野 英子 (箏68回生)	理事	鹿住 倫世 (箏82回生)
理事	松丸 直樹 (箏69回生)	理事	戸次 聡史 (箏82回生)
理事	小野 由紀子 (箏69回生)	理事	鈴木 克洋 (箏88回生)
理事	林 義昭 (箏69回生)	監査	橋本 正己 (箏71回生)
理事	今井 大弥太 (箏70回生)	監査	高倉 孝生 (箏71回生)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

■高女・専攻科

箏	高校	卒年	クラス	氏名	旧姓	没年
箏24回	高女24回	1924		木村 とし	金 沢	1995
箏26回	高女26回	1926	乙	山口富美子	今 井	
箏28回	高女28回	1928	乙	八巻 澄江		2011/2/2
箏29回	高女29回	1929	乙	正田 紀子	河 辺	2011/4/2
箏29回	高女29回	1929	乙	山中 千枝	森 山	2010/12/18
箏30回	高女30回	1930	甲	松田 アエ	加 藤	2011/12/20
箏30回	高女30回	1930	甲	内山 信子	参 木	2010/5/1
箏30回	高女30回	1930	乙	松本 静枝	宇津卷	2011/8/28
箏31回	高女31回	1931	乙	井上 早苗	岡 田	2011/7/1
箏31回	高女31回	1931	乙	鳥居 敏江	大松谷	2009/4/7
箏32回	高女32回	1932	甲	木村 禮子	滝 田	2011/1/23
箏32回	高女32回	1932	乙	藤波 綾子	稲 田	2007/8/3
箏32回	高女32回	1932	乙	丹羽 みつ		2011/5
箏32回	高女32回	1932	乙	齋藤喜代子		2014/3/3
箏33回	高女33回	1933	乙	谷澤実枝子	増 田	2011/1/30
箏33回	高女33回	1933	乙	滝口 正代	延 原	2010/3/24
箏33回	高女33回	1933	乙	小田村夏子	鈴 木	2011/1/26
箏33回	高女33回	1933	甲	中田 千代	佐 野	2011
箏33回	高女33回	1933	甲	加藤佳年子	山 崎	2012/12/16
箏33回	高女33回	1933	甲	飯田 久江	宮 本	2011/4/30
箏33回	高女33回	1933	甲	林 光	中 井	2010/11
箏33回	高女33回	1933	乙	千早 瑤江	八 卷	2013/10/30
箏34回	高女34回	1934	乙	高橋百合子	有 田	2012/1/25
箏34回	高女34回	1934	乙	堀井 美代	内 藤	2013/3/13
箏34回	高女34回	1934	乙	鈴木 娟子	安 村	2013/12
箏34回	高女34回	1934	乙	植木ふさ子	三 村	2013/7/28
箏35回	高女35回	1935	紅	葉師寺 静	三 野	
箏35回	高女35回	1935	紅	吉澤 とよ	和 田	
箏35回	高女35回	1935	紅	磯辺 尚子		2012/3/8

箏	高校	卒年	クラス	氏名	旧姓	没年
箏35回	高女35回	1935	紅	赤澤 泰子	守 田	2011/9
箏35回	高女35回	1935	白	中野 たづ	田 澤	2014
箏36回	高女36回	1936	紅	君塚 キミ	國 井	
箏36回	高女36回	1936	白	小早川勝子	溝 手	2002
箏36回	高女36回	1936	紅	小林 英子	木 村	2013/8/24
箏36回	高女36回	1936	紅	小田千代子	相 馬	2014/3/10
箏37回	高女37回	1937	紅	堀 雪江	八 卷	2011/11/25
箏37回	高女37回	1937	紅	高橋 節子	竹 居	2007/8
箏37回	高女37回	1937	紅	阿部瑠璃子	池 邊	2012/6/16
箏37回	高女37回	1937	白	前島富美子	富 塚	2008/9/7
箏37回	高女37回	1937	白	佐々木雅子	岡 田	2013/12/13
箏38回	高女38回	1938	紅	武藤 寛子	村 瀬	2014/3/16
箏38回	高女38回	1938	紅	菊池寿々子	宇 島	2012
箏38回	高女38回	1938	紅	中野 光子	富 永	2006
箏39回	高女39回	1939	白	福間 昌子	東	2012/12/23
箏40回	高女40回	1940	紅	森崎 韶子	菊 池	2012/2/15
箏40回	高女40回	1940	紅	野崎 美枝	小松崎	2011/8
箏40回	高女40回	1940	白	石山 陸子	五月女	2007/6/11
箏41回	高女41回	1941		加藤 雪子	西 村	
箏41回	高女41回	1941		佐藤 公子		
箏41回	高女41回	1941		佐藤 武子		
箏41回	高女41回	1941		野口 郁子	桜 井	
箏41回	高女41回	1941		宮沢 温		
箏41回	高女41回	1941		小林 雅子	西 尾	2005/3/4
箏41回	高女41回	1941		西浦 たみ	内 藤	2013/12/18
箏42回	高女42回	1942		和田 光子	古 賀	
箏42回	高女42回	1942		藤井 貞子	薄 井	2011/4
箏42回	高女42回	1942		福田 登志	則 満	2011
箏42回	高女42回	1942		高知尾恵美子		2010/4

■高女・専攻科

筈	高校	卒年	クラス	氏名	旧姓	没年
筈42回	高女42回	1942		高橋 真弓	佐藤	
筈42回	高女42回	1942		前田 満智子	金子	2006
筈42回	高女42回	1942		川辺 喜代美	藤浪	2005
筈42回	高女42回	1942		浅利 家寿子		2009
筈43回	高女43回	1943		樋口 美智恵		2011/8/13
筈43回	高女43回	1943		金森 トシエ	朝来野	2011/9/7
筈43回	高女43回	1943		渡邊 明香	武内	2013/9/10
筈44回	高女44回	1944		吉川 凱江	木内	2012/4
筈44回	高女44回	1944		横山 道子	村島	2014/5/27
筈44回	高女44回	1944		市村 義子	内田	
筈44回	高女44回	1944		今村 美智	宮下	
筈44回	高女44回	1944		岡本 玉枝	岡本	
筈44回	高女44回	1944		酒井 智恵	岩崎	
筈44回	高女44回	1944		神保 照子		
筈44回	高女44回	1944		利根川 登世子		2013/8
筈44回	高女44回	1944		中川 ゆり		2012
筈44回	高女44回	1944		真壁 富美子	針ヶ谷	2014/12/31
筈44回	高女44回	1944		浅野 都	佐川	
筈44回	高女44回	1944		竹村 宏子	岡野	2014/9
筈45回	高女45回	1945		山田 澄美	折橋	2011/6/19
筈45回	高女45回	1945		石川 みどり		2010/5/20
筈45回	高女45回	1945		伊藤 落葉		2010/3/19
筈45回	高女45回	1945		乗杉 都美子	板倉	2010/11/28
筈45回	高女45回	1945		西谷 さち	吹野	2008/12/30
筈45回	高女45回	1945		松尾 久子	鈴木	2007/12/24
筈45回	高女45回	1945		丸山 ヨシ	徳山	2005/9/7
筈45回	高女45回	1945		吉田 倫子	中野	2005/3/27
筈45回	高女45回	1945		佐下 橋吉子		2005/3/17
筈45回	高女45回	1945		石橋 悌子	大野	2004/6/17
筈45回	高女45回	1945		秋葉 哲子	大戸	2002/7/28
筈45回	高女45回	1945		稲垣 ゆり子		2001/6/17
筈46回	高女45回	1945		忍田 澄江	飯岡	2005
筈46回	高女46回	1945		菅原 照子	矢島	2005/12/22
筈46回	高女46回	1945		木場 弥恵子	可児	
筈47回	高女47回	1946		吉田 堪子	加藤	2011
筈47回	高女47回	1946		塩浦 良子	加藤	
筈47回	高女47回	1946		畠山 美恵子	畠山	
筈47回	高女47回	1946		増井 尚代	安田	
筈47回	高女47回	1946		佐藤 桂子	中村	2013/10/4
筈47回	高女47回	1946		三宅 美智子	中長	2012/6/24
筈47回	高女47回	1946		佐藤 桂子		2013
筈48回	高女48回	1948		長崎 玲子	本郷	
筈48回	高女48回	1948		白方 茂子	藤田	
筈48回	高女48回	1948		石坂 順子	生駒	
筈49回	高女49回	1949		川崎 和子	山下	2014/1/1

■高校

筈	高校	卒年	クラス	氏名	旧姓	没年
筈54回	高校6回	1954	B	荒川 重三		
筈54回	高校6回	1954	B	梅沢 千代子	近藤	
筈54回	高校6回	1954	B	望月 康子	佐久間	
筈54回	高校6回	1954	C	島山 博明		
筈54回	高校6回	1954	D	杉山 陽子	水船	
筈54回	高校6回	1954	D	細沢 美恵	古田	
筈54回	高校6回	1954	A	山田 達夫		2012/7/4
筈55回	高校7回	1955	B	渡辺 千鶴子	野沢	2014/1/29
筈55回	高校7回	1955	A	高田 憲尚		2005/1/31
筈56回	高校8回	1956	A	谷田 実		2010/8/3
筈56回	高校8回	1956	D	飯島 静江	山内	1999/10
筈56回	高校8回	1956	D	日高 良治		2013/10
筈57回	高校9回	1957	C	曾根 陽子	鮫島	2011/12/24
筈57回	高校9回	1957	F	高知 滋		2011/8/14
筈57回	高校9回	1957	E	加川 美津子	梅田	2012/11/11
筈57回	高校9回	1957	C	立見 順一		2013
筈57回	高校9回	1957	D	小池 玲子		
筈57回	高校9回	1957	A	戸室 寛隆		2014/3/28
筈57回	高校9回	1957	F	谷 道子	相羽	2013/5/21
筈58回	高校10回	1958	D	阿曾 尚夫		
筈58回	高校10回	1958	E	真柄 實		
筈58回	高校10回	1958	B	菅野 伸二		2009/11/22
筈58回	高校10回	1958	D	高橋 陽子	田中	2005/3/2
筈58回	高校10回	1958	D	轟 葵久江	大沢	2013/2
筈58回	高校10回	1958	B	高橋 健		2014/1/9
筈59回	高校11回	1959	B	喜田 幹生		
筈60回	高校12回	1960	A	吉田 良子	宇佐美	2008
筈60回	高校12回	1960	B	藤原 進		2008/2/6
筈60回	高校12回	1960	B	吉田 昭子	宮下	
筈61回	高校13回	1961	E	大川 孝子	落井	2012/8/15
筈61回	高校13回	1961	F	川道 千鶴子	林	2008/3/17
筈63回	高校15回	1963	D	小泉 晃淳		2011/5/8
筈63回	高校15回	1963	C	白井 矩一		2013/5/16
筈63回	高校15回	1963	C	花坂 弘子	清水	
筈63回	高校15回	1963	E	佐野 圭子		
筈63回	高校15回	1963	E	高木 勝也		
筈63回	高校15回	1963	E	細田 義明		
筈63回	高校15回	1963	E	永松 勇三		2014/12/28
筈64回	高校16回	1964	F	神田 悠紀子	吉田	2014/12/25
筈65回	高校17回	1965	D	大高 恵子	石原	2014/7/14
筈65回	高校17回	1965	A	直井 正子	斉藤	2010/4/22
筈65回	高校17回	1965	D	矢代 文子	横田	2012
筈65回	高校17回	1965	C	岡本 啓子	斎藤	2009
筈67回	高校19回	1967	E	山梨 美矢子	鈴木	
筈67回	高校19回	1967	C	目黒 直美	鈴木	2009/9
筈68回	高校20回	1968	E	池田 美佐子	和田	2011
筈69回	高校21回	1969	E	栗原 喜久子	佐野	
筈71回	高校23回	1971	A	中村 昭児		
筈73回	高校25回	1973	F	佐藤 民子	熊谷	
筈73回	高校25回	1973	F	赤羽 康弘		2011/8/8
筈73回	高校25回	1973	F	星野 裕子	中崎	2007
筈73回	高校25回	1973	F	吉田 和史		2004
筈73回	高校25回	1973	F	後藤 洋子	湯川	2014
筈73回	高校25回	1973	A	高橋 幸子		1996/11/3
筈73回	高校25回	1973	A	長谷川 千春	宮田	
筈85回	高校37回	1985	E	小此木 健伸		1997
筈96回	高校48回	1996	D	渡辺 健吾		2011/5/4
筈101回	高校53回	2001	B	山中 健太郎		2014/3/23

■教員

木村 勇三 没年 2012 (敬称略)

■高校

筈	高校	卒年	クラス	氏名	旧姓	没年
筈51回	高校3回	1951	B	橋場 信子	小林	2011/2/6
筈51回	高校3回	1951	B	中島 幸子	大杉	2008/9
筈52回	高校4回	1952		市園 盛一郎		2012/6/19
筈52回	高校4回	1952		荒牧 直子	依田	
筈52回	高校4回	1952		佐藤 雅子	高橋	2011/11/5
筈53回	高校5回	1953	C	川島 宏治		1999/9/6
筈53回	高校5回	1953	A	木村 恵子	照井	2013/12/25
筈54回	高校6回	1954	A	橋本 亨		
筈54回	高校6回	1954	B	木下 安希子	坂田	
筈54回	高校6回	1954	C	村松 正夫		
筈54回	高校6回	1954	A	稲葉 茂子		
筈54回	高校6回	1954	A	佐々木 郁子	池谷	
筈54回	高校6回	1954	A	吉田 順子		

*平成27年3月31日までにご連絡いただいた方を掲載しています。

また、平成24年から平成26年までの間にご連絡をいただいた中に、一部未掲載がありましたので、今回合わせて掲載いたします。掲載が遅れたことをご詫言申し上げます。

*Web同窓会システムでも確認できます。

編集後記

筈会の会報も今年で26冊目になります。筈寿会は今年10月で9回目の開催。昨年は最年長で筈36回生の先輩が参加されました。竹早高校の卒業生が現役の高校生を対象に話をする筈会特別セミナーも、今年で8回目を迎える予定です。昨年の特別セミナーの話し手は、筈会67回生から88回生まで、話された内容も建築・デザインの話から外交官、アナウンサー、会計士の仕事まで多岐にわたっています。今回、会報に執筆いただいた方は筈54回生から114回生まで、60年の年齢差があります。そして、昨年、あるいは今年、還暦になられたばかりの筈73回生の方々が、特集「あのころ」「これまで」そして「これから」で、それぞれの生き方を語ってくれています。この多様性、幅の広さ、裾の広がりこそが筈会の「宝」だと思います。筈会が発足して115年目にあたる今年も、皆さんに会報をお届けすることができました。ご協力いただいた会員、印刷会社の皆様に感謝申し上げます。(K・S)



会報編集委員

- | | | | | |
|-----|-------|------------|-------|------------|
| 委員長 | 塩見 健 | (高校 24 回生) | | |
| 委員 | 香川洋子 | (高校 20 回生) | 加藤幸太郎 | (高校 24 回生) |
| | 岩野英子 | (高校 20 回生) | 薩田須美子 | (高校 24 回生) |
| | 吉岡 新 | (高校 21 回生) | 豊島良行 | (高校 24 回生) |
| | 今井大弥太 | (高校 22 回生) | 花澤聖子 | (高校 25 回生) |
| | 松澤由利子 | (高校 22 回生) | 関川雅彦 | (高校 25 回生) |
| | 棚澤由貴子 | (高校 22 回生) | 高橋政行 | (高校 25 回生) |
| | 奥田和美 | (高校 23 回生) | 横山公志 | (高校 25 回生) |
| | 原田恵子 | (高校 23 回生) | 平河多恵 | (高校 25 回生) |
| | 水田茂夫 | (高校 23 回生) | 長谷部勇一 | (高校 25 回生) |

篁会報

発行日 2015 年4月24日
 発行 篁会
 〒112-0002
 東京都文京区小石川4-2-1
 東京都立竹早高等学校内
 連絡用電話 090-8853-1901
<http://www.takamurakai.com>
 編集 篁会 会報編集委員会
 印刷 共立速記印刷株式会社
 〒102-0072
 東京都千代田区飯田橋3-11-24
 表紙デザイン：北角きよ子 (高校25回生)